

I 2011年度 事業報告書

自転車の聖地として人気が高まる「しまなみ海道」において、自転車旅行者と住民との交流促進、自転車旅行者受入環境整備、情報発信機能強化など、住民参画型の活動を展開した。周遊型・滞在型の自転車旅行スタイルの定着、自転車人口の裾野拡大など、わが国唯一の「海峡をまたぐ自転車旅行」の充実を推進し、持続的可能な地域振興を目指す取り組みとなった。

1. 愛媛県地域連携・提案型ふるさと雇用再生事業（愛媛県委託事業）

アクセス改善、情報提供、おもてなしのしくみ構築など、自転車旅行者受入環境の整備を進めた。老若男女を問わず、様々な人がサイクリングを楽しめる環境が整ったしまなみ海道の魅力を発信し、集客基盤の構築を目指す取り組みとなった。

(1) サイクルトレインの運行

しまなみのたもとまでの二次交通として、自転車を解体せず、そのまま車内に持ち込める「サイクルトレインしまなみ号」を運行し、自転車旅行の先進地としての基盤整備を進めた。

①実施日

平成23年 4/3(日)、5/1(日)、6/5(日)、7/3(日)、7/31(日)、9/4(日)、10/16(日)、11/6(日)

②運行ダイヤ

往路：松山駅 7：33頃 → 波止浜駅 8：48頃

復路：波止浜駅 17：44頃 → 松山駅 18：50頃

(10月16日は来島海峡サイクリング大会の開会に合わせて往路の運行時間を30分程度早め、松山駅7：01頃 → 波止浜駅 8：11頃の運行とした。)

③乗車数

	往復	往路のみ	復路のみ	往路合計	復路合計	合計
4月 3日 (日)	8+子2	2+子1	0	10+子3	8+子2	18+子5
5月 1日 (日)	14+子1	2	0	16+子1	14+子1	30+子2
6月 5日 (日)	37	0	0	37	37	74
7月 3日 (日)	9	2	0	11	9	20
7月 31日 (日)	9+子2	1	0	10+子2	9+子2	19+子4
9月 4日 (日)	19+子2	0	2	19+子2	21+子2	40+子4
10月 16日 (日)	29	0	0	29	29	58
11月 6日 (日)	8	0	0	8	8	16
合計	133+子7	7+子1	2	140+子8	135+子7	275+子15



6月5日便。大学生グループの利用があり、往復ともに満員状態での運行となった。



7月31日便。夏休みを利用して、親子がマイ自転車を携えて乗車したことが印象的だった。



9月4日便。社内の研修をかねて自転車旅行体験を希望するグループの利用があった。

(2) サイクルマップの発行

距離、高低差、情報区分を自転車旅行者目線で実測、整理して編集した「島走マップ（大島・伯方島・大三島・上島）」と合わせ、広島県側の島々（生口島・因島・向島）と今治陸地部の実測、整理後、追加調査と取材を進め、初版版をしのぐ内容のサイクルマップを発刊し、自転車旅行者のバイブルとなることを目指した。

①実測追加調査の様子



生口島／季節感のある道を調査



因島／路地裏の魅力を調査



向島／みかん畑の小道を調査

②追加情報整理の様子

追加情報のデータカテゴリー別に整理し、既存情報との整合性を確認した後、ベースマップにおとし込む作業を行った。

同時に、サイクリスト視点に基づいたキャッチコピーと紹介文の作成を行い、情報が島内を周遊させるしかけとして機能するような見せ方、掲載の仕方について検討を重ねた。



③裏面追加情報取材の様子

- ・自転車旅行者が最も関心を寄せる「飲食店」。その情報を、島ごとに地元民・サイクリストからヒアリングし、個店をピックアップ。店舗取材を行い一覧記事にまとめた。
- ・島内の二次交通手段である航路・バス路線等を、各会社に取材して自転車積載の条件や制限、料金等について情報を収集し、一覧表に網羅した。



生口島瀬戸田の商店を取材



因島のお好み焼き店を取材



向島の飲食店を取材

[サイクルマップが主要なサイクリング雑誌で取り上げられ、全国から問い合わせをいただいた。]

[印刷部数 13,000部は、自転車旅行者立ち寄りポイント（海道沿線及び県内外のショップ等）に配布]



2012_03_15 BRUTUS727号(マガジンハウス)



2012_01_15 オートキャンパー2月号(八重洲出版)



2010_10_30 サイクリングライフ vol.3(八重洲出版)

(3) 自転車旅行者向け商品開発

景観、食材、島に流れる時間・空間など独特のしまなみの資源をいかした商品開発を行った。また、手づくり感溢れる土産物を小ロットから販売できるよう、担い手との連携体制を検討、しくみ化を目指し、意見交換した。

【飲食部門】

① 食メニューの商品開発

期 日：平成23年4月10日（日）

訪問先：ギャラリー&キッチン KIWI

内 容：増殖するイノシシ肉と自然味あふれるキクイモを地元販売者に提供してもらい、オリジナルレシピを開発した。

結 果：しまなみのイメージを大切にしていると好評を得た。
家庭で誰もが簡単に作れる点が高い評価を得た。

気付き：サイクリスト向けのオリジナル弁当“二輪弁”のメニューにも取り入れたいレシピが完成した。



トークショーの様子。世界のたべもの話と、しまなみ海道の魅力を伝えました。



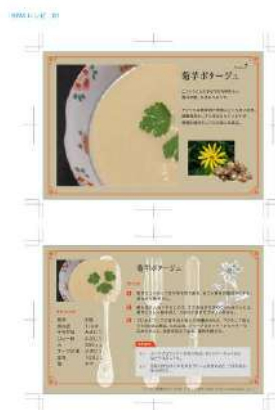
しまなみの食材をぎゅっと詰め込んだランチボックス。現地に行ってみたくて好評を得ました。



夢中で箸がすすむ参加者の皆さん。次回は何ですか？と期待の声が聞かれました。



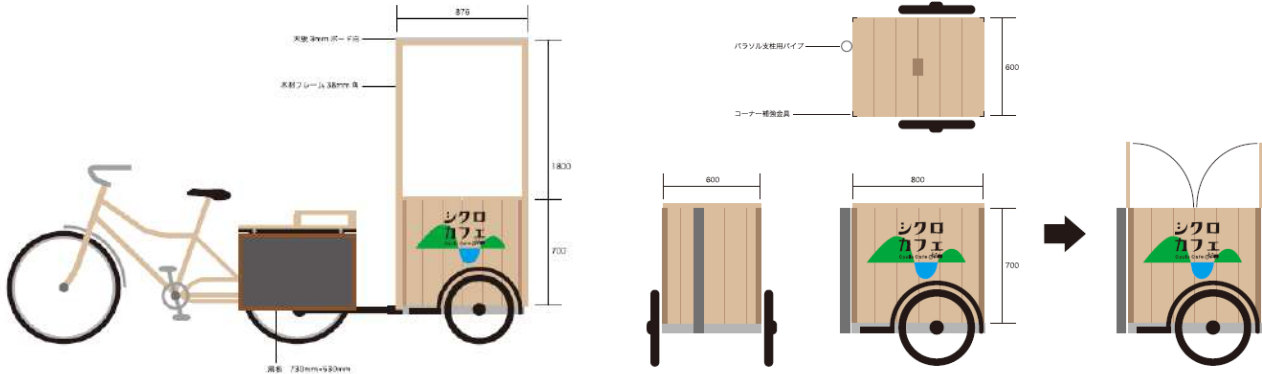
【菊芋の黒酢きんぴら】
しまなみのオリジナル
レシピ 完成



【菊芋ポタージュ】
しまなみのオリジナル
レシピ2 完成

② 食メニュー展開の構想 シクロカフェの商品化

地元の魅力的な食材を、地域ならではのスポット（絶景ポイントなど）で楽しみたい旅行者のニーズに応えるしぐみを検討。目的地を点々とする自動車等の旅とは異なり、ルートそのものを満喫する自転車旅行者がその道中のポイントで携帯食等を広げることに鑑み、移動式のおもてなし空間創出を地元住民と共に検討。開発中の食メニューの試食会を行いながら、商品化を検討した。



■シクロカフェの実験的展開■



今治市内の南光坊前にて実験的に提供。電源の確保、水の用意、備品の格納方法などを実地検証した。



立ち飲みカフェの雰囲気 연출し、アウトドアでの一杯を楽しんでもらう技術を検証。

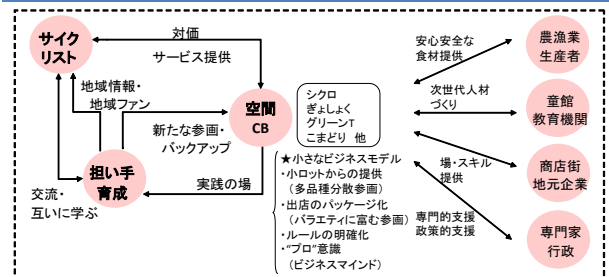


大人から子どもまで、自転車乗り以外の幅広い年齢層に支持されるメニュー検討。意見フィードバックと集約を進行。

下半期は、実験的展開から見えてきた課題を整理し、マルチステークホルダーの参画を促すシステム開発を建築設計の側面から進めた。

- (課題) ○地元とのコラボレーションによる運営のしくみが見えにくい。
→多様なステークホルダー（飲食、物産）のチャレンジ精神を結実
- メニューのブラッシュアップは、本会だけでは結実しない
→小ロットからの提供のしくみを整え、参画者の幅の広がり、関係者のやりがい等創出
- 移動カフェを拠点とし、情報を伝えるしくみが機能することが大切
→カフェそのものの誘客のチカラをどう醸成するか。滞在時間増加にも直結

持続可能な展開へ、ステークホルダーの協働

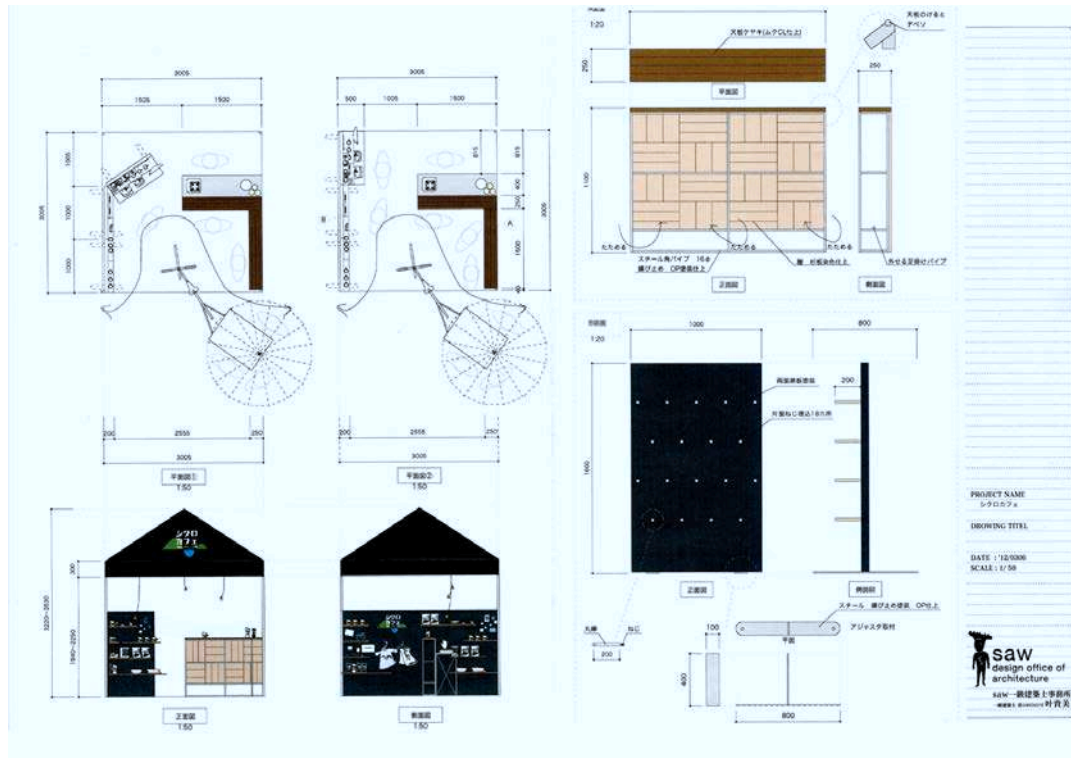


"自転車のまち"宣言によるブランド発信
"自転車のまち"としてのハード整備

啓発のための資金調達(資金循環)
まちへの畏敬・感動・愛着

他に類のない地域資源(地域ブランド)
愛媛の観光振興に寄与・今治のまちおこしの起爆剤

地元との意見交換した展開イメージ



今後の展開イメージを設計

【グッズ部門】

① ニーズ調査（聞き取り・対面方式） （基礎データ）

平成23年8月「いよぎん地域経済研究センター」実態調査立会
 「しまなみ海道を走るサイクリング客は地元以外が7割以上」「リピーター率27.1%」
 居住地別内訳：「近畿29.2% 関東26.9% 中部12.3% 愛媛20.8% 広島4.6%」
 ※遠路からのサイクリストが非常に多い。
 ※サイクリストの間でしまなみ海道（来島海峡大橋）の認知度は高いことを確認。

（しまなみ来訪経験者などへの聞き取り）

- 青木陽子氏 エディター・サイクリスト「バイシクルナビ」他連載執筆者
 大阪ABC主催チャリジェンヌメンバーの一人 著書に『バイシクル・ガール』など。
 - ・自転車の安全走行を啓発するような商品を企画して欲しい。
 例えば反射材のチャームなど。日本は先進国の中で自転車事故の数が異常な多さ。
 自転車先進国であるオランダなどの30倍の事故数である。
 - ・サコッシュは手軽だが、私自身は風呂敷を愛用している。
 - ・おしゃれな商品でないと女性は見向きもしないので要注意。
 - ・とにかく軽くて薄いこと。自転車アイテムは機能が非常に求められる。
- 井上伸夫氏 広告コピーライター 自転車NPO法人「アーバンエコロジー東京」理事。
 - ・今売れている自転車アイテムは総じてデザイン性が高い。
 例えばnari/furiやRin Projectなど。
 - ・しまなみ海道には魅力があるので、ブランドとのコラボ商品などは現実的で訴求力があるのではないかと。
 - ・多くのサイクリストはインターネット通販で商品を購入している。
 実際、自転車に乗って移動していると荷物を増やせないで、店舗でいいなと思った商品
 を帰宅後にネット通販で購入というパターンが多く見られる。
 - ・ツーリングで土産を買うときにも宅配便で送ることが多い。



●高梨治人 ライトパブリシティ執行役員/アートディレクター

人気自転車ブロッガー「走れ！ 銀座まで BD-1 で自転車通勤」

- ・しまなみ来訪時は、購入するものも食べ物（素材、地酒）の宅配がほとんど。
 - ・多くの選択肢が世の中に溢れていて、その地方を売りにした商品も多数出ている中、多くの思いを詰め込みすぎると返って客に敬遠されてしまうこともある。
- デザインもメッセージもできるだけシンプルなことが、今の時代に求められている。
(デザイナーとしてマスプロダクツデザインをしてきての意見)



●ブリヂストンサイクル自転車 SNS 「E*meters」 浜名湖オフ実行委員会

関西オフ実行委員会

日本全国のサイクリストがインターネット上で交流するソーシャルネットワークサービス内で 30 人—50 人が参加する大規模オフ会を主催するコミュニティ

- ・ツール・ド・おきなわなど、レースに参加する必ず自転車関連のお土産アイテムが洒られるが、正直、使えないものが多い。
- 土地の食べ物・T シャツ・てぬぐいなどが求められるのでは。



(メーカー視察・聞き取り)

今人気の自転車アイテムを制作し、全国のサイクルショップなどに卸・またはショップ直販・インターネット通販しているメーカーを訪問。現在の市場状況などをうかがうと同時にコラボレーションの可能性を探った。

●nari/furi <http://www.narifuri.com/> デザイナー小林氏

- ・ narifuri はファッションアイテムである：自転車アイテムという括りで制作していない。あくまで「ファッション」だと考えている。普通に着る洋服で機能性を求めたら自転車乗りにも、そうでない人にも受け入れられた。
- ・ 自転車ショップでの販売の難しさ：商品を売るのは店員さん。Narifuri の商品の世界観やこだわりは、自転車ショップの中で並列になるとありきたりの商品に見えてしまう。独自のショップやセレクトショップ、またインターネットで販売する方向がベスト。
- ・ ダブルネーム、コラボレーション：「バイシクルナビ」や自転車メーカー・ブリヂストンサイクルとコラボ商品を出している。ロット数がはけることが条件。



● Rin Project <http://www.rinproject.com/> 社長山田氏

- ・ 元々縫製工場がたくさんある浅草が拠点。端材を使って自転車商品が、昨今取引先増加。卸しとインターネット通販。
- 特に人気は輪行袋。色の指定ができないが、端材を使っているから安くあがるメリット。輪行袋のオーダーは現在受けていない。



● CCP 木島社長

- ・ スタイリッシュで使える商品を、メッセンジャーなどと一緒に開発。
 - ・ 自転車カフェ「サコッシュ」などへ商品を置いている。自転車店では商品はあまり動かない。自転車に乗る人が寄るところで売るのが大事。ネット通販も行なっている。
 - ・ コラボ商品は小ロットから。
- 一番可能性が高そうなので現在生地サンプル、見本制作へ。



●TCKW <http://tckw.jp/>代表立川氏

- ・地元の非常にいい素材に、市場競争力をつけては。
- ・商品の消費者の多くを近畿・首都圏に求めるのであれば、そのマーケットをよく知っているデザイナーとのコーディネートが必要。
- ・しまなみ地元の素材・技術で自転車アイテムに使えるようなものを検討。



(インターネット販売の可能性)

インターネット販売の重要性に鑑み、販売チャネルを増やすべく、その可否、方向性を探った。

- ・インターネット通販をサイトで開始するには最低 10,000PV/日がスタート
現状、本会サイトはインターネットの世界では無名の存在。
- ・カード決済のシステム、SSL は必須。
- ・Amazon.com などの委託販売では、商品単価が高い・商品数が多くないと利益に結びつけることは難しい。
- ・ロジスティックス。バックヤードの人数をどう確保するか。受注から発送報告まで 24 時間以上かかると消費者はストレスを感じる。
- ・店舗がない分、サイトの見た目が信頼度。テクノストレスを感じさせないために、グローバルナビゲーションを明確化し、サイトのロゴクリックでホームページに戻るなど、現在のインターネットサイトで主流の「動き」をしっかりと踏襲することが必要。
- ・集客方法。PV を上げるためには google アドセンスを購入するなどの方法が今までは有効だったが、次第に Twitter、Facebook Pages などからのダイレクトリンクで集客する方法に時代は動いている。動線を造り知名度を高めるためにもこの 2 つの SNS は開始すべき。

以上のアドバイスに基づき Facebook Twitter での動線造りと PR 活動を開始した。

<http://www.facebook.com/shimanami>

http://twitter.com/#!/cyclo_shimanami

アドバイスをいただいた人

●ヴィキューブ 早野氏

外部委託のウェブディレクター。現状のサイトの PV データなどを入手。

●poant 廣澤氏

ブランディングディレクター。ナイキやユニクロ、ミズノなどのブランディングを手がける。

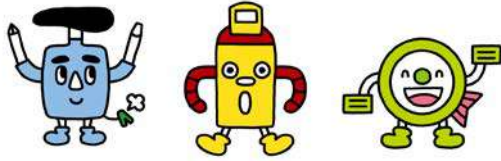
インターネット販売が成立するのに必要な PV、ネット上での集客、コピー、写真、デザインなどのアドバイスをいただく。

●青木陽子氏(既出)

女性サイト Cafeglobe.com ファウンダー、元編集長。同ウェブサイトでは EC を積極的に推し進めてきた。

(本事業で開発され、事業終了後に商品になる可能性が高いもの)

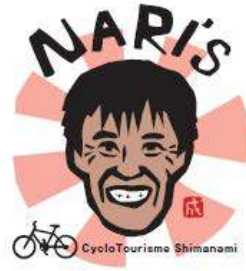
①キャラクターA



ルー三兄弟

サドル・ハンドル・ペダルを擬人化
道案内が得意でしっかりもののハンドルー
交流意欲が高いおだやか次男のサドルー
おいしいもの好きの末っ子ペダルー

②キャラクターB



走るナリ

ポタリングガイド・宇都宮一成をキャラクター化
しまなみの魅力、自転車の魅力を知り尽くし、
住民と旅行者の橋渡しをするガイドが売り。
商品モチーフに全面活用

③しまなみグッズ

「しまなみテイストを身につけて欲しい」との思いを込めて、オリジナルグッズの検討。
しまなみの波・山・そして時間を意識。ポイントは普段使いもできる点。
開発にあたっては、地場産業とのコラボやハンディがある人の作業所とのタイアップを進めた。

●島走サコッシュ

サイクリング中のちょっとした荷物入れに便利。
走行中は邪魔にならないベストサイズ！折りたたんでコンパクトに！



●島走ソックス

伸縮性&通気性あるサイクリングにぴったりの一品。
ペダルを踏む足首のオシャレにとデザインしました。

●島走ビーチサンダル

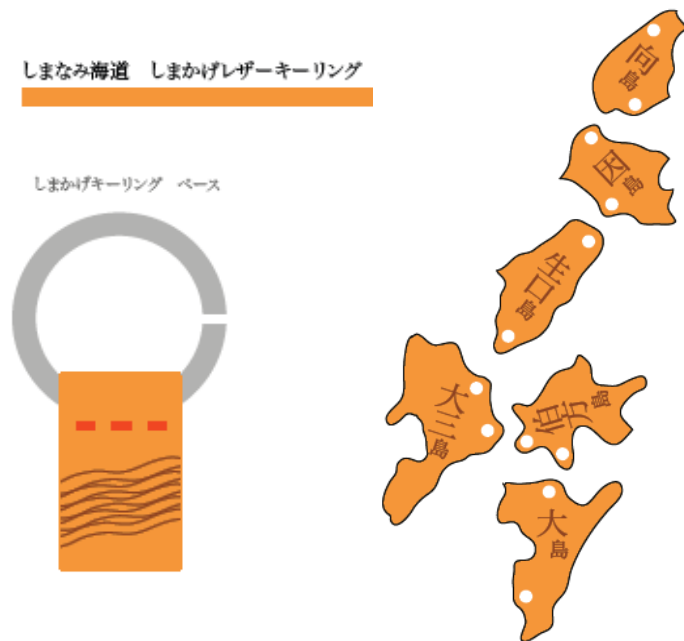
自転車を降りたら、ビーサンに。
開放感いっぱいしまなみ散歩に一足どうぞ。



●しましまパーツMI X 6

しまなみ海道でつながる島々がモチーフに。

自由に組み合わせて、ストラップにキーホルダーにどうぞ。



(4) 自転車ツアー売り込みの営業活動

アウトドアショップでのPR活動、自転車店やサイクルカフェの訪問等、全国をエリアに分けて、しまなみ自転車旅行の魅力としまなみへのアクセス手段を伝えるなど、しまなみへの自転車旅行者誘客活動を展開した。

<営業活動>

① 東京都の旅行会社、自転車店、サイクルカフェ等の訪問

期 日：平成23年4月10日（日）

訪問先：サイクルランドコープ、サイクルハウスしづや、フレンド商会、モンベル渋谷店

内 容：シクロ広報誌、イベントツアーチラシ、サイクルトレインチラシの設置依頼

結 果：店頭を設置してもらえた。今後チラシ等の送付物の了解を得た

気付き：しまなみ海道への興味のある顧客ニーズを把握した



「サイクルランドコープ」
しまなみ海道の近況について
店長他と情報交換を行った。



「モンベル渋谷店」
アウトドアファンと自転車愛好家の
増加について商品ニーズを調査。



「フレンド商会」
チラシ設置を依頼し、都内での
自転車交通マナー聞き取り調査。

② 奈良県の旅行会社、自転車店、サイクルカフェの訪問

期 日：平成23年4月23日（土）

訪問先：FUNNY BIKES、グエル バイシクル ストア、キタサイクル、モンベル奈良店

内 容：シクロ広報誌、イベントツアーチラシ、サイクルトレインチラシの設置依頼

結 果：店頭を設置してもらえた。今後チラシ等の送付物の了解を得た

気付き：しまなみ海道の情報提供と、シクロの活動を紹介し興味を持ってもらえた



「FUNNY BIKES」

シクロの活動紹介とタンデム自転車の近況について対談した。



「モンベル奈良店」

しまなみ海道の奈良県での認知度や訪問者状況を聞き取り調査。



「グエル バイシクル ストア」

しまなみ海道の魅力について店長他と情報交流を図った。

③ 香川県の自転車店、サイクルカフェの訪問

期 日：平成23年5月21日（土）

訪問先：モンベル高松店、LEONIA（レオニア）、

内 容：シクロ広報誌、イベントツアーチラシ、サイクルトレインチラシの設置依頼

結 果：店頭を設置してもらえた。今後チラシ等の送付物の了解を得た

気付き：しまなみ海道の情報提供と、シクロの活動を紹介し興味を持ってもらえた



「BASE CAMP 高松店」

高松在住者のしまなみ海道へのアクセス手段を探った。



「モンベル高松店」

しまなみ海道への誘客の依頼と訪問者状況を聞き取り調査。



「LEONIA（レオニア）」

アウトドア入門拠点。自転車ツアー造成の手法について討議した。

④ 京都府の自転車店、サイクルカフェの訪問

期 日：平成23年6月18日（土）

訪問先：モンベル京都駅前、

内 容：シクロ広報誌、イベントツアーチラシ、サイクルトレインチラシの設置依頼

結 果：店頭を設置してもらえた。今後チラシ等の送付物の了解を得た

気付き：しまなみ海道の情報提供と、シクログッズ商品の販促活動を行えた。



「アイバサイクル」
自転車ツアーの手法について、都市型との違いを認識する機会を得た。



「モンベル京都駅前店」
京都在住者のしまなみ海道へのアクセス手段を探った。



「コセキサイクルセンター」
しまなみ海道に興味を持つ対象者について聞き取りをした。

⑤ 兵庫県の自転車店、サイクルカフェの訪問

期 日：平成23年7月9日（土）

訪問先：モンベル神戸三宮店、

内 容：シクロ広報誌、イベントツアーチラシ、サイクルトレインチラシの設置依頼

結 果：店頭を設置してもらえた。今後チラシ等の送付物の了解を得た

気付き：しまなみ海道の情報提供と、シクロの活動を紹介し関心を抱かせた。



「サイクルセンター・サンワ」
兵庫在住者のしまなみ海道への関心度を聞き取り調査した。



「モンベル神戸三宮店」
アウトドアショップでのサイクリスト向け商品の充実度を確認した。



「カフェ・コンフォート」
自転車店&カフェのコンセプトを聞き、経営方法について学んだ。

⑥ 東京都の旅行会社、自転車店、サイクルカフェ等の再訪

期 日：平成23年11月26日（土）

訪問先：モンベル・グランベリーモール店、

内 容：しまなみ島走マップ配布、イベントツアーチラシ、法人会員募集要項の設置依頼

結 果：店頭を設置してもらえた。今後チラシ等の送付物の了解を得た

気付き：しまなみ海道の情報提供と、シクロの活動を紹介し関心を抱かせた。



「Bicycle Inn Bean's」

しまなみ海道への関心度と滞在先でのニーズを聞き取り調査した。



「モンベル・グランベリーモール店」

アウトドアショップでのサイクリスト向け商品のニーズ等を調査した。



「Nicole EuroCycle 青山」

自転車ツアーについて、都市から地方への送り出しシステムを検討した。

⑦ 熊本県の自転車店、サイクル・ゲストハウス等の訪問

期 日：平成23年12月11日（日）

訪問先：スポーツサイクル KUSHI、サイクルハウス、しゃりんかん

内 容：しまなみ島走マップ配布、イベントツアーチラシ、法人会員募集要項の設置依頼

結 果：店頭を設置してもらえた。今後チラシ等の送付物の了解を得た

気付き：しまなみ海道の情報提供と、シクロの活動を紹介し関心を抱かせた。



「しゃりんかん」

当地での自転車ツアーを見聞し、しまなみへの誘客手法を検討した。



「サイクル・ゲストハウス」

ゲストハウスのコンセプトや迎客の手法について学びを得た。



「スポーツサイクル KUSHI」

しまなみ海道への関心度とアクセス手段について聞き取り調査した。

⑧ 岡山県の自転車店、サイクルカフェ等の訪問

期 日：平成24年1月7日（土）

訪問先：モンベル岡山店、

内 容：しまなみ島走マップ配布、イベントツアーチラシ、法人会員募集要項の設置依頼

結 果：店頭を設置してもらえた。今後チラシ等の送付物の了解を得た

気付き：しまなみ海道の情報提供と、シクロの活動を紹介し関心を抱かせた。



「Freedom」

しまなみ海道への訪問頻度や現地で要望するサービスを調査した。



「モンベル岡山店」

しまなみ海道への誘客の依頼と訪問者状況を聞き取り調査した。



「レストラン&バイシクル」

店のコンセプトと経営方法のノウハウを質問し、誘客方法の手段を学んだ。

<学習活動>

① サイクリスト受入情報発信学習会

日 時：平成24年1月28日（土）

会 場：今治市民活動センター大会議室

講 師：柴田剛氏（マップ専門家）

内 容：広報誌、マップ等、自転車旅行者への広報活動について専門家招聘による学習会開催

気付き：しまなみ海道を面で捉えた情報発信の大切さを共有。

広島県サイドが進めるとびしま海道やさざなみ海道との連動、愛媛県内の他のサイクリングロード（双海シーサイド、石鎚ヒルクライムなど）との相乗的なマップ化などを検討。



② サイクリスト受入機能整備学習会

日 時：平成24年3月17日（土）

会 場：今治市内周遊 他

講 師：疋田智氏（自転車ツーキニスト・自転車オピニオンリーダー）

内 容：住民運営の自転車休憩所、道の駅・レンタサイクルステーション、ガイドツアー発着の駅等、しまなみ沿線の多様な立ち寄りポイントの連携のあり方について専門家招聘による学習会開催

気付き：しまなみ海道を自転車で行く人が求めるものとして、「交流」意欲は大きい。訴求力が高い立ち寄りポイントは、情報が集まり、かつその情報を直にアナウンスしてくれる住民がいること。

トラブルの際のバックアップ機能のしくみが整っていかうとしていることは魅力。マスメディア等を活用し、首都圏・関西圏に発信すべき。スポーツバイクに乗り始め、しまなみにいきたいと思っているビギナーには、重要な情報で、来訪意欲を喚起するもの。

住民の手づくりのおもてなしはポイントであるが、担い手が偏りがち。自転車旅行者受入の必要性を多くの市民に啓発していくことが大事。自転車旅行者がもたらす今治市への経済的な効果も大事だが、高齢化が進む日本で、自転車活用のまちづくりの意義をまちとして共有。次世代の担い手である子ども達への自転車の価値啓発、正しい乗り方（規則やマナー）の教育などを担うプログラムの必要性を検討。



(5) 啓発イベントの実施

昨今の自転車ブームに伴い増加する自転車利用者に向けて、日本で最も評価の高いサイクリングコース「しまなみ海道」への誘客と、シクロツーリズム（自転車旅行）の魅力を伝える活動を行った。

下半期は、2014年度に向け、海道を活用した世界的なサイクリング大会開催の協議もはじまるなど、地元の受入態勢整備に注目が集まってきていることを見据え、地元住民への啓発を目指した、自転車移動カフェ「シクロカフェ」活用啓発イベントを実施した。

①しまなみへの誘客を見据えた啓発イベント

①-1 まちなかウェルカムセレモニー

“自転車で旅する文化”と“四国の魅力”を世界に向かって発信することを目指す「コグウェイ四国」。世界10カ国、60名のサイクリストが四国1周をする途中の今治市に立ち寄る際、しまなみ海道の情報発信を行った。

日 時：平成23年9月10日（土）18:00-20:00

会 場：上島町弓削島

参加者：約60名（ゲスト）＋地元住民約40名

内 容：海洋観光をめざす上島町にふさわしく、船を借り上げてのウェルカムパーティーを開いた。一行を歓迎する町民が数多く集まり、和太鼓演奏や踊り音頭を披露しながら日本文化の一端に触れてもらえる機会を提供した。



「船上歓迎セレモニー」の様子



「和太鼓の演舞」に参加者も陶酔した。



「踊り音頭」に参加者も参加し交流を深めた。

①-2 せとうちサイクリングフェア イベント

サイクリスト向けのおもてなし自転車移動カフェ「シクロカフェ」を、広島東急ハンズと広島ホームテレビ主催の「せとうちサイクリングフェア」において出展し、地産地消の飲食物・ツアーチラシ・広報誌等を通じて、しまなみ海道の魅力と自転車旅行の啓発に努めた。

日 時：平成23年9月23日（金）～25日（日）／9月30日（金）

会 場：広島東急ハンズエントランス

内 容：シクロカフェでの飲食物の配布、自転車アイテムの展示ならびにチラシ・広報誌等の配布を行った。



「東急ハンズ広島店」『せとうち再発見フェア』の目玉としてシクロカフェと自転車グッズを販売した。



「東急ハンズ広島店」自転車旅行者向けに地産地消で開発した飲食物を提供した。



「東急ハンズ広島店」しまなみ海道から発信する自転車用品を通じて誘客と啓発活動を行った。

①-3 東予の物産展 in 大街道 イベント

自転車移動カフェ「シクロカフェ」を、松山市大街道で開かれた愛媛県東予地方局主催の「別子銅山ミニパネル展 in 大街道」「東予の物産展 in 大街道」において出展し、オリジナルの自転車グッズの展示、地産地消の飲食物の配布、ツアーチラシ・広報誌・島走マップ・イベントチラシを配布し、自転車文化の啓発としまなみ海道への誘客へと繋げた。

日 時：平成23年10月1日（土）～2日（日）

会 場：松山市大街道

内 容： アンパンマンとタンデム自転車撮影会、タンデム自転車試乗会、シクロカフェでの飲食物の配布・自転車アイテムの展示ならびにチラシ・広報誌等の配布を行った。



「松山市大街道」

『東予物産展』の目玉としてシクロカフェと自転車グッズを販売した。



「松山市大街道」

地産地消の味を振舞いながら、しまなみ海道の説明と紹介を行った。



「松山市大街道」

アンパンマンとしまなみ風景写真による撮影会を行い海道への関心をそそった。

②地元住民の受入態勢整備を見据えた啓発イベント

②-1 大島でのイベント

海道を活用した世界的なサイクリング大会開催の実現を大島住民の有志と意見交換。自転車を地域活性化へつなぐ可能性を啓発するイベントを、県内外の参加がある「島四国歩こうイベント」に合わせて、大島で企画。スポーツバイクの魅力を体感してもらったり、「島走マップ」の紹介コーナーを設けたりする等、自転車旅行の魅力を伝えた。

日 時：平成24年3月11日（日）

会 場：大島・サイクルオアシス「空と海の駅」

内 容： スポーツバイクはもちろん、キッズバイク、車椅子型バイクなども展示。試乗会や遊び場空間創出による自転車への興味関心を促すコーナー運営。その他、シクロカフェでの飲食物の試食・自転車アイテムの展示ならびにチラシ・広報誌等の配布。



「大島/空と海の駅」

シクロカフェで飲食物のおもてなしと、チラシ・広報誌の配布を行った。



「大島/空と海の駅」

地元住民との意見交換。自転車の可能性と魅力の啓発を行った。



「大島/空と海の駅」

スポーツ自転車を展示し、説明と試乗会を行い、自転車への関心を引き起こした。

②-2 大三島・伯方島でのイベント

自転車を地域活性化へつなぐ可能性を啓発するイベントを、サイクリストがスタンプラリーを楽しむ「しまなみ縦走」に合わせ、大三島・伯方島で企画。自転車の魅力を歌に込めたオリジナルソングコンサートで自転車啓発をしたり、スポーツバイクの魅力を体感してもらったりする等、自転車旅行の魅力を伝えた。

日時：平成24年3月24日（土）・25日（日）

会場：大三島・多々羅しまなみ公園 ・ 伯方島・伯方SCパーク

内容：自転車への興味関心を促す啓発コーナーを設置し情報の提供、ならびに自転車の魅力を語るトークショーを実施。また、自転車の歌をテーマにしたライブコンサートを開催し、自転車の持つ可能性を共有。その他、シクロカフェでの飲食物の配布・自転車アイテムの展示なチラシ・広報誌等の配布。



「大三島／多々羅しまなみ公園」

自転車の魅力を語るトークを行い、自転車に対する関心を呼び起こした。

「伯方島／SCパーク」

自転車啓発パネルを展示し、マナーUPをはじめ、自転車の可能性を伝えた。

「伯方島／SCパーク」

ライブイベントを行い、自転車の歌を通じて興味と関心を呼び覚ました。

(6) しまなみポタリングガイドツアーの販売

地元らしい体験や食、土産などを付加した自転車ツアーを造成し、自転車旅行者と地域との橋渡しするポタリングガイドが同行するガイドツアーとして販売した。

【ツアー造成の様子】



地元の資源を調査。



地元民のおススメ場所を聞き取り。



路地裏を発掘中。

●ぐるぼた

実施日：4月3日（日）

参加者数：15名

食に関心のあるサイクリストを対象に企画したツアー。大島島内の老舗からオリジナルの新メニューまで、絶品グルメを自転車で巡るツアー。初心者からベテランまでグルメを堪能しながらのサイクリングで、島リズムの時間を感じられる魅惑の内容となった。



「大島／西屋」
シクロ定番となった西屋の焼豚



「大島／高瀬水産」
地域名産のデベラ工場を訪ねる



「大島」
急坂の上り道を走る小学生の参加者

●大島ぐるり 割引デイ

実施日：5月1日（日） 参加者数：0名 ※雨天中止

●タンデムポタリング

実施日：6月5日（日）

参加者数：26名

タンデム自転車の一般公道走行が可能な愛媛県の特性を生かして、大島を一周するタンデム自転車ツアー。道中に地元で地産地消にこだわるバーガー販売店、鯛の養殖業者、魚貝類の加工販売工場を訪れ、商品開発や販売促進に意気込む地元力のエネルギーとスピリッツに触れる濃い内容となった。



「大島」
タンデム車で来島海峡大橋走行中



「大島／バラ公園」
地産地消のハンバーガーを味わう



「大島／カネキ水産」
鯛の養殖と鯛カツバーガーについて
hiaringu

●伯方島ぐるり

実施日：7月3日（日）

参加者数：2名

伯方島をぐるりと一周しながら、路地裏に迷い込み、一見では訪れることのできない場所を尋ねる自転車ツアー。大島や大三島にも足を延ばして橋を渡る体験や、ハーブ園や農家喫茶を営む農家を訪ねて、交流・会話を楽しめる有意義な内容となった。



「伯方島・大島大橋」
走行距離約62kmのサイクリング中



「大島／宮窪」
工場直生の生シラスでおもてなし



「大三島／七曜工房」
ハーブティー等でくつろぎの時間を過ごす

●畑deカフェ

実施日：7月31日（日）

参加者数：14名

伯方島の休耕地を利用して、地元グループが運営する畑で野菜収穫体験とピザ焼き体験をするツアー。走行距離が長いにもかかわらず小学生の参加もあり無事に完走。暑さのためにのぼせそうな人もいたが、地元主婦のもてなしにより、冷たい飲み物やエネルギー補給でリフレッシュし皆が完走することが出来た。



「今治／波止浜駅」
小学生から大人まで幅広い年代が参加した



「伯方島／沖浦ビーチ付近」
野菜収穫体験とピザ作り体験中



「伯方島／沖浦ビーチ付近」
地元婦人会との会話や交流も楽しんだ

大三島をぐるりと一周しながら、路地裏に迷い込み、一見では訪れることのできない場所を尋ねる自転車ツアー。大島や大三島にも足を延ばして橋を渡る体験や、ハーブ園や農家喫茶を営む農家を訪ねて、交流・会話を楽しめる有意義な内容となった。



「大三島・盛」
走行距離約47kmのサイクリング中



「大三島・上浦」
しまなみの風光明媚さを堪能する



「大三島／口総」
サイクルオアシスのお寺を訪れて本堂を見学する

●大三島ぐるり

実施日：9月4日（日）

参加者数：4名

大三島をぐるりと一周しながら、路地裏に迷い込み、一見では訪れることのできない場所を尋ねる自転車ツアー。大島や大三島にも足を延ばして橋を渡る体験や、ハーブ園や農家喫茶を営む農家を訪ねて、交流・会話を楽しめる有意義な内容となった。



「大三島・盛」

走行距離約47kmのサイクリング中



「大三島・上浦」

しまなみの風光明媚さを堪能する



「大三島／口総」

サイクルオアシスのお寺を訪れて本堂を見学する

●輪行で行こう！

実施日：11月6日（日）

参加者数：5名

波止浜から伯方島までサイクリングを体験し、木浦港で輪行の講習を行い、自分で輪行を実行して船に乗せて今治までもどる自転車ツアー。輪行を実体験することで困難さを克服し、公共交通機関を利用して自転車利用のためのアクセス範囲を広げるための手段を獲得する有意義な内容となった。



「大島」

パンクが発生し、修理方法をレクチャーする機会を兼ねた。



「伯方島」

輪行のための分解作業を補助を受けながら実体験していく。



「今治」

船をおりて、組立作業をおこなう場所へ移動する。

2. しまなみスローサイクリング普及事業（愛媛県西条地方局委託事業）

地元のグリーンツーリズム（GT）と連携し、しまなみ各所にある地域の魅力を自転車で点～線～面へと結ぶ観光スタイルを普及させる活動を展開した。自転車人口の底辺拡大と地域との交流人口の拡大にもつなぐことを意識した基盤整備事業を展開。住民参画を促し、持続的な地域振興を目指す取り組みとなった。

（1）サイクルオアシス整備事業（受入体制の整備）

地域住民と自転車旅行者の交流の場として、自転車旅行者が気軽に立ち寄ることができる休憩場所を地域の協力で整備した。整備にあたって、設置機材の選定・購入などを含めた空間デザイン、協力者への助言などのトータル的なコーディネートを行った。

概要：自転車旅行者が気軽に立ち寄り、交流できる休憩場所
公募と整備

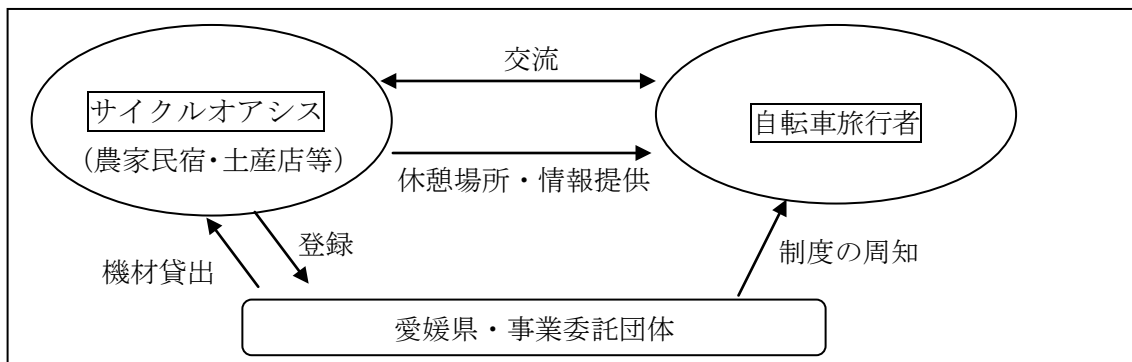
登録者に無償で提供していただくサービス

- ①休憩場所（ベンチ等）の提供
- ②飲料水の補給
- ③トイレの貸し出し
- ④空気入れの貸し出し
- ⑤地域情報の提供等の無償提供

登録者に無償で支給するもの

- ①休憩用の屋外ベンチ
- ②自転車スタンド
- ③空気入れ
- ④パンフレットスタンド
- ⑤共通の目印の設置

○対象：しまなみ地域の農家民宿、レストラン、喫茶店、お土産物店、ガソリンスタンド、直売所等
軒先（青空休憩）20箇所



<整備されたオアシス一覧>

ペンションみなみうら / 今治市吉海町
 できかけ教室 / 今治市吉海町
 民宿「千和」 / 今治市宮窪町
 正味集会所 / 今治市吉海町
 NPO法人アクションアイランド / 今治市吉海町
 農家民宿「ポーチュラカ西部」 / 今治市伯方町
 お好み焼き「さくら」 / 今治市伯方町
 伯方直売所 伯彩 / 今治市伯方町
 道の駅「マリンオアシスはかた」 / 今治市伯方町
 井上いちご農園 / 今治市上浦町

工房「こりん」 / 今治市上浦町
 喫茶・レストラン「すりい〜わあ〜んど」 / 今治市大三島町
 万福寺 / 今治市大三島町
 菰隠温泉 / 越智郡上島町岩城
 岩城物産センター / 越智郡上島町岩城
 倉本石油 / 越智郡上島町岩城
 しまでカフェ / 越智郡上島町弓削
 潮湯（海水温浴施設） / 越智郡上島町弓削
 インランド・シー・リゾート「フェスパ」 / 越智郡上島町弓削
 立石港務所 / 越智郡上島町生名

(2) しまなみ周遊サイクリングPR事業

「しまなみ＝自転車・GT」のイメージを全国発信するため、自転車旅行者に的を絞ったPR活動を展開した。

○概要：チラシ配布

旅行代理店との連携によるしまなみ周遊（GT体験等）サイクリングツアーの企画・販売

(3) ニーズ把握のためのアンケート実施事業

サイクリングイベントにおいて、サイクリング客・自転車に関心のある人々を対象とした、しまなみやしまなみ地場産品に対するニーズ把握のためのアンケートを実施した。

○概要：ツアー参加者、イベント参加者を対象に、配布記述式のアンケートを実施

(4) Green Cycling in shimanami (サイクルイベント) ツアーアテンド

しまなみ各島の何れか1島を自転車で巡りながら、グリーンツーリズム（GT）等を体験していく周遊イベントにおいて、伯方島をタンデム自転車で巡るコースの企画立案、当日アテンドを行った。

●<タンデムコース>【タンデム自転車でフルーツアイランドサイクリング】

実施日：11月20日（日）

参加者数：20名

サイクリング初心者が参加者の中心となる中、タンデム自転車で伯方島のプチ周遊を楽しんだ。出発前の乗り方講習からスタッフがサポートし、スローペースのサイクリング。グリーンツーリズム体験は、この日限定の畑カフェ&手づくりピッツアづくりとなった。大自然の中でいただく味は大好評で、また柑橘のおいしい時期の収穫体験にもしまなみを体感いただくことができた。サイクリングとグリーンツーリズムのコラボがバランスよいプログラムで、地元の人やガイドとの交流に訴求力があることがツアーを通して確認できた。



「伯方島／SCパーク」
タンデム自転車の取扱に長けたシクロスタッフによる乗り方のレクチャーをサポートした



「伯方島／沖浦ビーチ」
透き通る秋の青空の下、初心者にも無理のない行程で、伯方島プチ周遊サイクリングを楽しんだ。



「伯方島／沖浦農園」
地元の人との交流ならびに収穫体験を通して、島の魅力を十分に味わうツアーの提供ができた。

(4) しまなみ周遊サイクリング普及事業連絡会議

サイクリングとグリーンツーリズムの融合による地域活性化を検討するための関係者会議に出席した。

●第1回連絡会議

日時：平成23年5月16日（月）13：00～15：30

会場：愛媛県東予地方局今治支局4F 大会議室

内容：サイクルイベント部会、交流イベント部会、サイクルオアシス部会の開催
事業骨子の確認、担い手の役割分担

●第2回連絡会議

日時：平成23年7月25日（月）9：30～12：00

会場：愛媛県東予地方局今治支局4F 大会議室

内容：サイクルイベント、交流イベントの進捗状況確認
参加者募集について

●第3回連絡会議

日時：平成23年9月27日（火）9：30～11：30

会場：愛媛県東予地方局今治支局4F 大会議室

内容：サイクルイベント、交流イベントの進捗状況確認
当日の役割分担、リスクマネジメントについて

●しまなみサイクルオアシス会議

日時：平成24年2月7日（火）10：00～11：30

会場：伯方公民館

内容：しまなみサイクルオアシスの現状共有について
しまなみサイクルオアシスの展望について

現状・感想、意見・要望等（当日の意見交換及び事前調査の要旨）	対応等
<p>【現状】 （利用者数は8箇所計751人、3箇所不明、8箇所未回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「SHIMAP」でしまなみ情報を発信している。 ○ 「島走マップ」は便利で人気が高い。 ○ 休憩のほか、空気入れやトイレの借用がある。 ○ 地域の情報発信にパンフレットスタンドを活用したい。 <p>【感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ サイクリストに休憩所としておもてなしをしたいと考えている。オアシス巡りの際、事前連絡があれば、集会所を開放してお茶出し等の接待が可能。（地元自治会了解済み） ○ 多くの方に利用していただきたい。 ○ 利用者を多く増やすことよりも、利用いただいた方々に満足していただけるよう、交流・おもてなしに努力したい。 ○ サイクリストと直に接することが大事。 ○ 地域の情報発信にパンフレットスタンドを活用したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ サイクルオアシスの運営尽力に深謝。

<p>【意見・要望等】 <情報関係></p> <ul style="list-style-type: none"> ○パンフレット等の資料が不足しているので配布願いたい。 ○サイクリストから地域の歴史や観光スポットなどしまなみ地域全体の情報について尋ねられるので、広域的な観光パンフレットの配置も願いたい。 ○外国語表記のパンフレットがあれば良い。（「SHIMAP」等） ○各サイクルオアシスの現在地情報がわかるようにしてほしい。 ○各島毎に情報発信拠点を作ってはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○パンフレット類が提供できるよう、今治市や上島町、しまなみ振興協議会等と協議。 ○オアシスの現在地情報が分かるような表示物を検討。
<p><器材関係></p> <ul style="list-style-type: none"> ○パンフレットスタンド内の薄手のチラシが倒れて傷みやすい。 ○喫煙所を整備してほしい。 ○パンフレットスタンドに雨があたり、カビが生えた。 ○自転車スタンドなどが痛んだ際の修繕はどうすればよいか。 ○海外からのサイクリストのため、外国語表記の案内板が必要。 ○利用者からの自転車の修理・メンテナンス工具の要望がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○薄手のチラシが倒れないようパンフレットスタンドを加工。（対応済） ○喫煙所は、防火の観点から設置なし。 ○器材が痛んだ場合は、各運営者の方々において、可能な範囲での修繕対応依頼。（対応困難時はシクロへ） ○外国語表記の案内板は、24年度予算において余裕が生じれば対応検討。 ○修理・メンテナンス工具は、24年度に整備。
<p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ○現状を維持しつつ、PRをして利用者を増やしたい。 ○幹線道路沿い（県道や防波堤護岸等）にサイクルオアシスへの案内標示をしてもらいたい。 ○旅行会社や、関係各機関と連携しながら、オアシスの利用者増加につながる仕組みづくりに取り組んでもらいたい。 ○サイクルーズパスを利用したスタンプラリーなどで集客を図ってほしい。 ○各オアシスの特典チケットの提供サービス等を行ってはどうか。 ○県として、今後サイクルオアシスをどのような形にしたいのか。そのために、運営者はどのような行動をとればよいのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今後ともチラシ・マップ・ホームページ等でサイクルオアシスのPRに尽力。 ○24年度事業で、グリーンツーリズム体験とオアシス巡りを組み合わせたスタンプラリーを実施。（抽選で記念品贈呈） ○サイクルオアシスの第1の目的は、サイクリストと島の人々との交流・ふれあい。立ち寄った方々が「島の人々は暖かいね」と感じられるようなオアシスを、運営者の皆様が主体となって、目指す旨共有。 ○島ならではの耳寄り情報や名所・観光情報、グリーンツーリズム情報の提供など、島の魅力発信に尽力要請。

●第4回連絡会議

日時：平成24年3月19日（月）10：00～11：30

会場：愛媛県東予地方局今治支局4F 大会議室

内容：サイクルイベント、交流イベントの振り返り
 2012年度事業について

3. 自転車旅行サポートシステム開発事業（愛媛県緊急雇用対策事業）

世界有数のサイクリングコース「しまなみ海道」は、自転車道や案内標識等の整備が進み、自転車旅行の聖地として立ち寄り資源の付加価値向上も進んでいる。変化が多い明媚な景観を楽しむ滞在型旅行者が増える中、旅行中の荷物を持たず身軽な旅を楽しみたいとのニーズが寄せられている。

そこで、「しまなみ海道」着地時から、自転車旅行周遊中の随所に荷物を直送できる荷物運搬システムを検討、サービス化について模索する事業を展開した。

1. 自転車旅行者の荷物運搬についてのマーケットリサーチ

(1) アンケートの設計

自転車旅行者の行動パターン、荷物運搬の需要のボリュームを聞き取り調査することとした。想定されるサービスについて、以下の通り整理し、アンケートの設計を行った。

《 事業の組み立て 》

配送サービスを以下の通り、大別した。

〈A：マイ自転車配送サービス〉

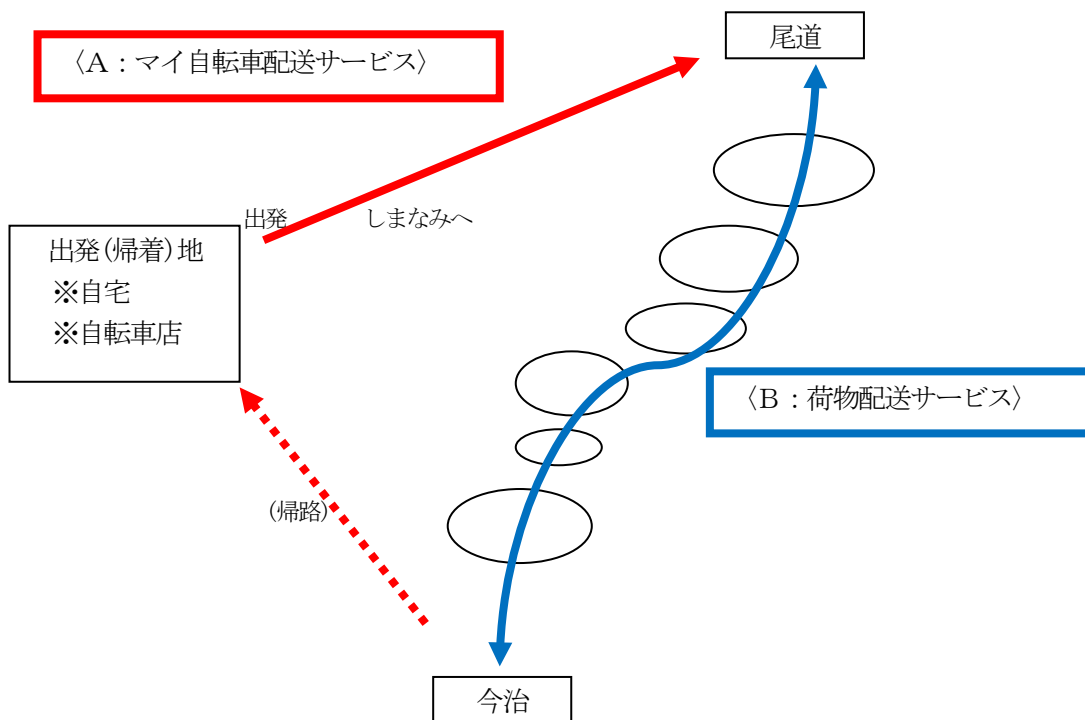
区間：旅行者の自宅（出発・帰着地）⇔しまなみ海道の拠点（尾道または今治）

配送対象物：マイ自転車

〈B：荷物配送サービス〉

区間：しまなみ海道内の宿泊先（最寄の荷受け場所）⇒次の宿泊先

配送対象物：旅行中の荷物、土産など



上記サービス展開をイメージし、アンケートは、「マイ自転車配送」「荷物配送」の2種のニーズを、しまなみに自転車旅行に来ているサイクリスト、大阪・東京で開催される自転車見本市「サイクルモード」来訪の自転車愛好者 100 名を対象に、対面記述方式で実施した。

★アンケート結果 別添

(2) アンケート結果を受けての意見交換

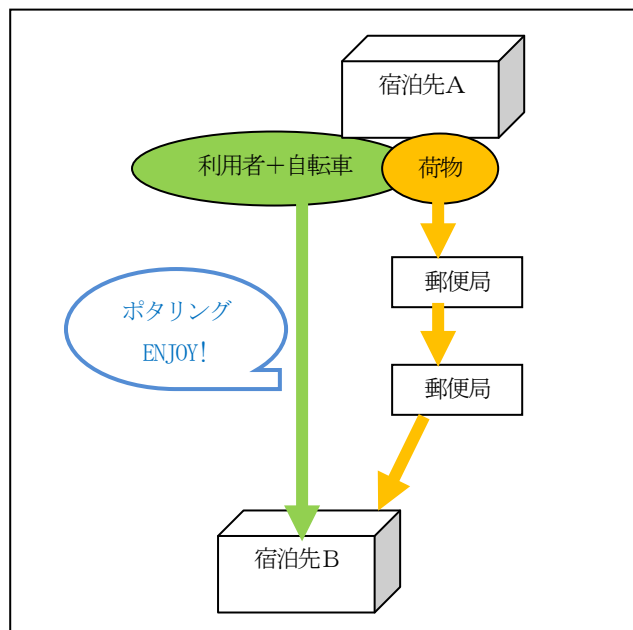
アンケート結果を分析し、複数の運搬業者とのミーティングを行った。
意見交換の概要は、以下の通り。

〈A：マイ自転車配送サービス〉

- 旅行者の自宅（もしくは近隣の配送拠点）でマイ自転車を預かり、しまなみ海道の拠点まで配送するサービスとする。
- 自転車運搬ツールには、輸行バッグがある。
 - ・輸行バッグは自分で運ぶのが基本
 - ・形状的に、配送会社に預けるのは不安。トラブルの元。
(破損のおそれ。ゴルフバッグとは異なる)
- 新たな制度の提案
 - 梱包形態を考える必要あり → 課題
 - ・最も一般的な「ダンボール箱」配送
 - 自転車店の納品後の空箱再利用の提案
 - 専用パッケージ化（オーナー制度・リユース）
 - 梱包資材の保管方法（場所）や空箱配送の問題あり
 - ・パッケージ以外に、梱包作業の課題整理
 - 自分で梱包できない旅行者のために、配送業者に梱包依頼
 - 近所の自転車店で配送受付・梱包サービスの導入
- 現状で想定されるターゲット（利用者像）
 - ・マイ自転車があっても、自分で分解・組立できない人
 - ・輸行バッグを使わない（使えない）人
 - 専門店の利用率（購入歴）が高い可能性
- 自転車店、配送会社と組んだモニターツアー企画
 - 【社会実験】による検証を行う
 - ・ニーズの把握（アンケート調査）と掘り起こし

〈B：荷物配送サービス〉

- しまなみ海道サイクリング出発点からその日の終点へ、旅行者の荷物や土産などを配送するサービス
- シクロの自力配送手段として、バイク購入を検討
 - ・荷物を運べる原付バイク リース5万円/1台・1ヶ月
- 海道内を行き来する業者との連携
 - ・ドリンクの配送車・各島の営業店へ
 - ・道の駅・既に郵便事業と提携あり
- 郵便事業の集配サービス利用を検討
 - ・自転車以外の荷物はゆうパックとして配送できる
 - ・15時までの受付分はその日（夕方）に配送が可能
 - ・各島内の郵便局はすべて、土・日・祝日が休み
 - 利用が見込める時にサービスができない → 課題
 - ・郵政としては「公共性」「地域貢献」に着眼か



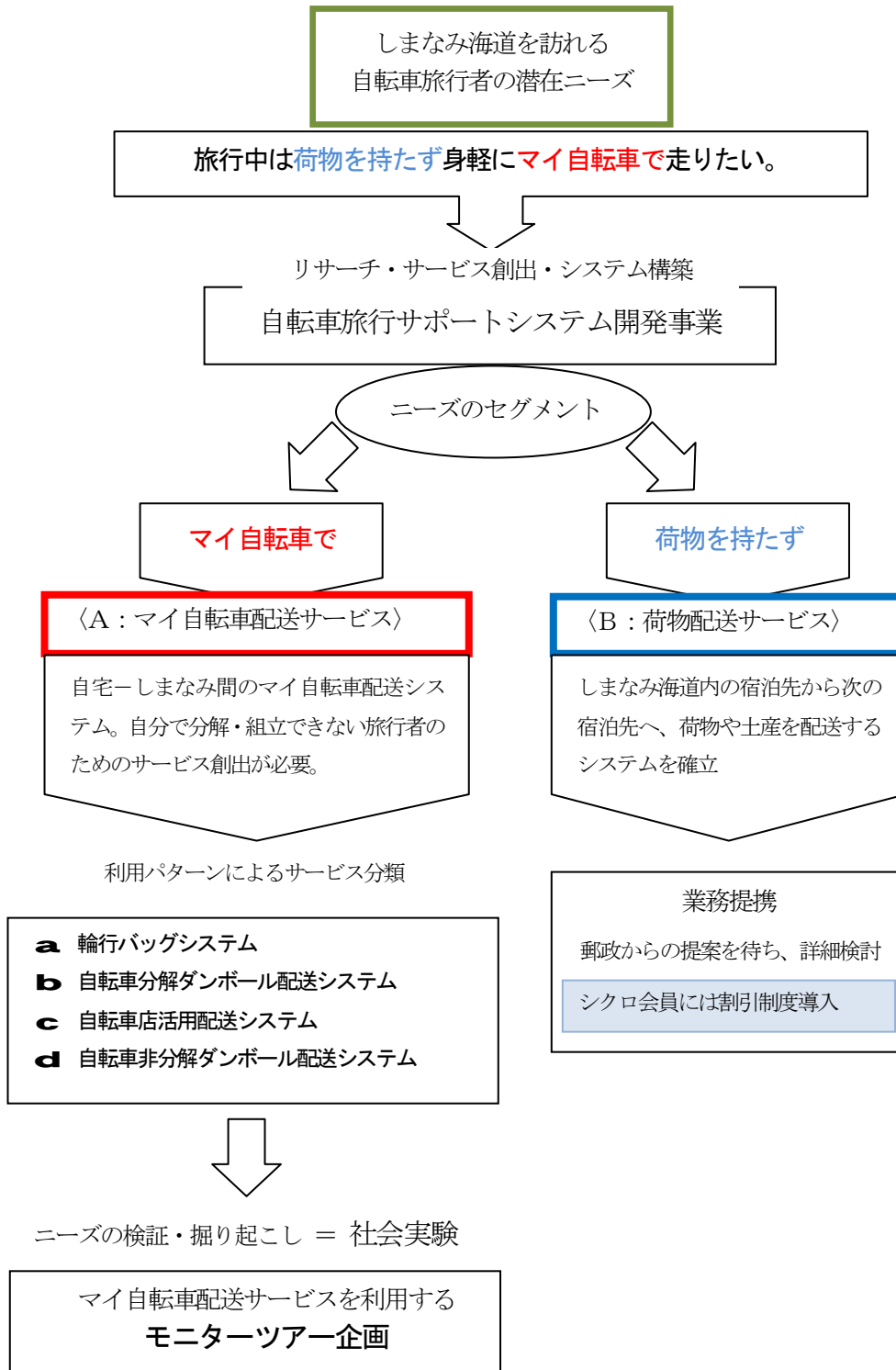
《まとめ》

- 社会実験として、〈A：マイ自転車配送サービス〉を取り入れたモニターツアーを企画
 - 自転車店や配送業者、協力者に打診
 - しまなみ海道自転車旅行に参加してくれる人、遠方の自転車乗りの掘り起こし
 - ※参加者の中の何人かにマイ自転車配送サービスを体験してもらう
- 〈B：荷物配送サービス〉に関しては、民間既存業者の提案待ち

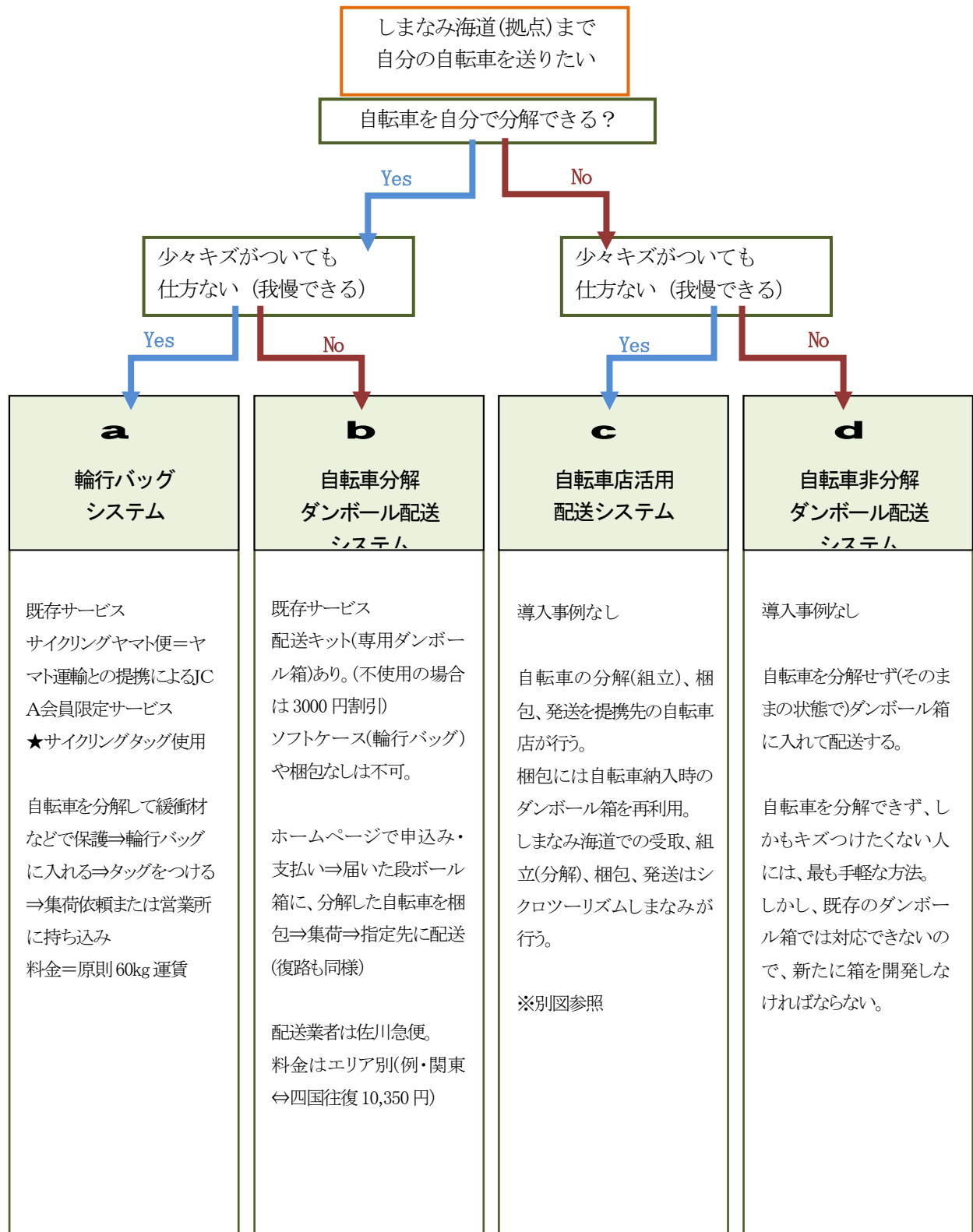
2. 荷物運搬サービス内容の作成

以下の2つのサービスについて、サービス内容を作成し、社会実験に入った。

【事業フロー】

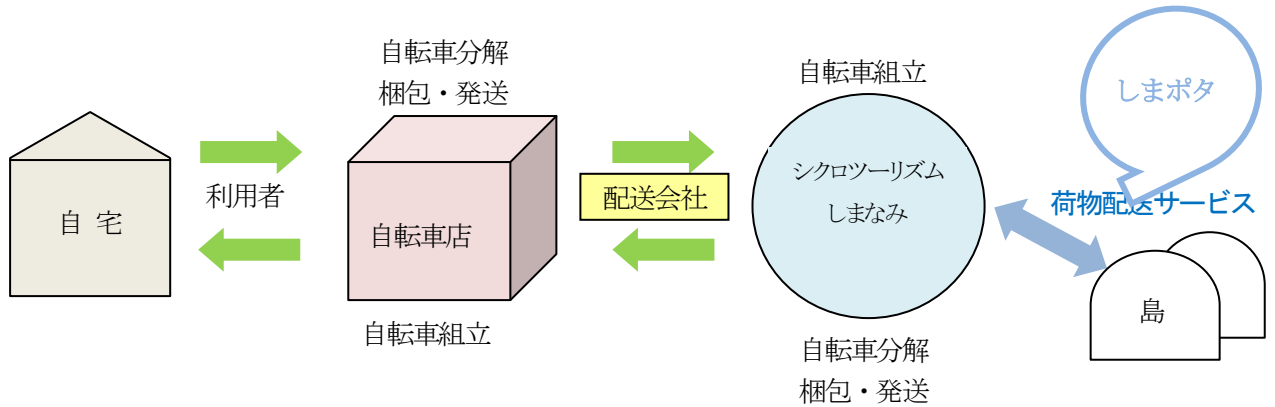


【サービス利用フロー】



【モニターツアーで実験するサービス】

全国各地からしまなみ海道へやって来る自転車旅行のためのマイ自転車配送サービス。
全国各地に営業店をもつ大手自転車販売店と業務提携するのが理想的。※調整中。
サービス利用対象者には、分解・組立の際のキズへの保証はないことへの事前了解を得る。



	旅行者	自転車店	シクロツーリズムしまなみ
メリット	○自分で分解・組立しなくて済む	○分解・組立の手数料 ○顧客、サービスの拡充につながる ○ダンボール箱の再利用(エコ)	○自転車旅行の受入基盤強化、旅行者増、リピーター確保 ○受入ネットワーク活性化 ○サポートシステム確立→他地域へ
デメリット・課題	×購入先でない自転車店(可能性大) ×自宅～自転車店の持込・受取に手間がかかる(配送会社 比較) ×キズがつく可能性あり ×しまなみの拠点が今治市側のみ	×自店の顧客以外にサービス ×業務の煩雑化 ×キズなどのトラブル ×ダンボール箱の常時確保(場所)	×配送会社との提携も必要になる ×旅行者のニーズには応えきれない ×イベント時などの対応(体制づくり)→可能か？

3. 荷物運搬実施主体の検討

民間配送業者との協働を模索する一方、社会実験などを経て、新しい旅行サービスの実現を進めた。

既存民間事業者とのミーティングの状況に鑑み、新たな事業者登録は見送り

《現状》

●日本郵政グループなど、数社との業務提携の意見交換

- ・公共性のある配送サービス事業に参入したい意向。
- ・各島内に拠点がある事業者の整理。

課題：土日が営業日でないため、荷物預かりに難あり。

- ・荷物の大きさ制限の整理。

課題：日本郵政は、自転車（ミニベロを除く）に関しては、ゆうパックの大きさ制限を超えるため、現在は配送NG。

2年後の可能性が高い、規制緩和の状況を勘案することを共有。

4. 荷物運搬サービスの社会実験

しまなみ自転車旅行サポートシステム（自転車らくらく便/荷物らくらく便）の有効性を調査することを目的に第1回目の実験ツアーを開催した。

開催日：平成24年3月24日（土）・25日（日）

内容：社会実験ツアー参加者のご自宅からツアー出発地点（尾道駅）、ツアー終着地点（今治市内）からご自宅の「自転車無料運搬サービス」を実施

MY自転車無料運搬 社会実験の様子

① モニターが協力店を選択し、自転車を持参

関東：「サイクルテック IKD」（タンデムOK） 〒370-0837 群馬県高崎市下横町 10-10 シルキーコート 101（1階東側） TEL：027-324-2360	関東：「イーストリバーサイクルズ」（タンデムOK） 〒130-0025 東京都墨田区千歳 3-3-2 TEL：03-6676-3500
関東：「サイクランド コーファー」（タンデムOK） 〒142-0063 東京都品川区荏原 4-6-4 TEL：03-3783-7881	中部：「ミソノサイクル」（タンデムOK） 〒430-0933 静岡県浜松市中区鍛冶町 320-27 TEL：053-454-7108
中部：「モリサイクル&ツールドリバー」（タンデム不可） 〒453-0053 愛知県名古屋市中村区中村町 8-55-3 TEL：052-481-3653	関西：「GUELL BICYCLE STORE」（タンデム不可） 〒630-8113 奈良県奈良市法蓮町 570-7 TEL：0742-31-2114
愛媛：「BANFF」（タンデムOK） 〒794-0027 愛媛県今治市南大門町 4-2-10 TEL：0898-34-7130	愛媛：「上野サイクル」（タンデムOK） 〒790-0932 愛媛県松山市東石井町 5-8-1 TEL：089-956-3256



旅行者は、自分の自転車を購入したショップ（自宅から近隣）に持参。

ショップは旅行者から預った自転車を適当な箱に梱包し、発送。

課題：手数料を支払い、協力体制を構築 = 実際のサービス化の際には利用料金に反映されてしまう。

梱包は、本来業務の合間に実施。迅速性を担保することが困難。

送料が運送会社、コネクション、地域により差があり、利用者への均一サービスを打出し難い。

自転車預りから梱包発送までのタイムラグを含めた均一所要時間の算出が難しい。

旅行者が、どのように梱包されるか直に見たいという声があるが、現実的には困難。

都市部の店舗では梱包する箱の保管が場所がなく、箱の手配も必要とする場合がある。

分解・箱詰め時などに車体に傷が付く恐れがあり、クレームの対象となることが懸念される。

自転車の種類が多様なため、分解作業をどこまで行うかの明確化が必要である。

店舗により梱包状態に差異が出るため、均一サービスを行うためのマニュアルが必要である。

本格的サービスに移行するには、当該店で販売した自転車の顧客サービスであれば可能性が伺える。

② ツアースタート地で自転車を受け取り、シクロスタッフが組立



分解され、梱包された状態で送られてきた自転車を組立。
多種多様な自転車があるため、組立は想像以上に難しい作業。

課題：受取協力場所の確保が困難である。

受取場所を自転車店舗とした場合、組立時にも手数料が発生し、利用料金に反映されてしまう。
受取店舗によっては、保管期間を制約されるケースが考えられ、発送・到着のコーディネートが必要。
繁忙期に集中して自転車が届けられた場合、保管場所を確保できないケースが想定される。
各メーカーで自転車の形態が異なり、車種によっては専門家であっても組立作業が困難な場合がある。
開封・組立時の車体への傷等のダメージによるクレームが懸念される。
開封後の空箱・梱包材の処理にも経費が必要となる。

③ ツアーゴール地点で自転車を預け、シクロスタッフが梱包



ゴール地点で、送られてきた状況と同じように梱包。
配送の際の傷や故障が無いように配慮し梱包。

課題：サービス提供主体となる受け皿組織が必要である。

受け皿組織には、自転車の取扱に長けたスキルを持つスタッフの配置が必須。
預り、組立作業のことを考えた十分なスペースを持つ倉庫等の確保。
梱包材のストックも含めた準備体制を構築しておくこと。
自転車搬入場所とその後の利用者移動手段の確保が検討材料。
梱包時に梱包物が受けたダメージの保障対応の必要性。
利用者の利便性を含めた手数料と送料の設定が必要。

5. 荷物運搬人材育成・利用条件・料金設定等の検討

■自転車らくらく便

- ・全国各地から「しまなみ海道」へやって来る自転車旅行のためのマイ自転車を配送するもの

社会実験の結果を受け、実現可能性について検討中。

(導入に向けての課題)

- ・自分で自転車を分解できない人のためのサポーターの制度の確立が必要
社会実験の中では、協力店となった自転車専門店が担当
※手数料支払などのしくみを機能しても、煩雑な作業であることから、事業化が困難
- ・梱包材の検討が必要
社会実験の中では、ハードケース又は段ボール箱を協力店となった自転車専門店が確保
梱包後サイズが、3辺の和が302cm以内（但し、縦117cm・横145cm・幅40cm以内）を範囲内に設定
※自転車を大切に扱う旅行者のニーズに合うよう、
発地側のみならず、着地側にも、梱包のスキル、梱包材のストック等が必須で、事業化が困難。

■荷物らくらく便

- ・「しまなみ海道」で自転車旅行を楽しむ方の手荷物を配送するもの

無料サービス継続中

平成24年2月～6月まで。土日祝日の事前予約制

(サービス内容仕様書案)

①荷物の大きさと数量

お一人様3個まで

縦 最大145cmまで・横 最大40cmまで・高さ 最大117cmまで・重量 最大23kgまで

②サービス対象地域

サイクリングスタート地点で荷物預かり

→広島県尾道駅周辺から、しまなみ海道島嶼部、今治駅周辺エリア

(上島町など、離島においては、要検討)

③配送の条件

希望の日時・場所の事前予約制

指定可能な時間帯：13:00まで→同日18:00までに指定場所へ配送

→旅行後の荷物や土産をご自宅に届けるサービスは要検討

■情報発信

- ・サイト開設

<http://www.rakuraku-shimanami.com/>

しまなみ自転車旅行サポートシステム 開発のためのアンケート調査結果

平成23年10月16日(日)～11月15日(火)



シクロツーリズム
しまなみ
CycloTourisme Shimanami



- 1. 対象者**
 - 「しまなみ海道」サイクリング中の旅行者 310名
 - 自転車総合展示・試乗会「サイクルモード東京」参加者 109名
 - 自転車総合展示・試乗会「サイクルモード大阪」参加者 110名 合計 592名
- 2. 実施期間** 平成23年10月16日(日)～11月15日(火)
- 3. 方法** 対面記述依頼・アンケート方式

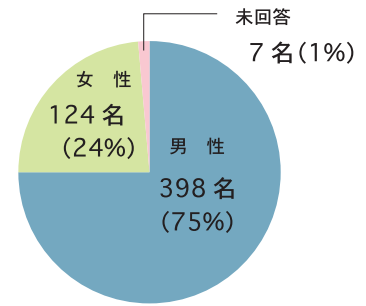
【総括】

- 男性からの回答が7割となった。サイクリング客、イベント参加者は男性が多いことが想定される。
- 30歳代、40歳代を中心に幅広い年齢層からの回答を得た。
- 愛媛県内を中心とする中四国圏域から5割弱、関西・関東圏から5割強の回答を得た。
- 「しまなみ海道」へは自家用車で訪れている人が6割を占めた。
- しまなみ海道サイクリング中に不便を感じることで
 - ・橋の自転車料金を払う煩わしさ
 - ・自転車道の案内標識の不足
 - ・トイレの数、情報の不足
 - ・トラブル発生時の不安などがあげられた。
- しまなみ海道で整備を望むサービスとして
 - ・トラブル発生時のレスキュー制度
 - ・船やバスに自転車を積載できるシステムが指摘された。
- サービス導入を検討している「荷物運搬サービス」については、「必要だと思う」と答えた人が83%にのぼった。サービス提供の利用料金は、ポストンバック1個あたり500円までが33%、1000円までが49%となった。
- マイ自転車の運搬サービスは、「必要だと思う」と答えた人が71%となった。公共交通を使って県外から来訪する際は、あったら利用したいとの声があった。1台3000円～5000円の料金、丁寧な扱いと確実性を望む意見があった。

【回答者自身のことについて】

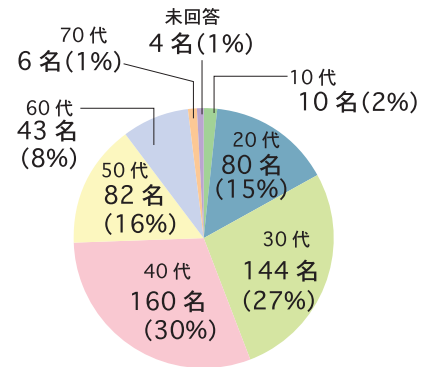
Q1. 性別

	(人)
男性	398
女性	124
未回答(不明)	7



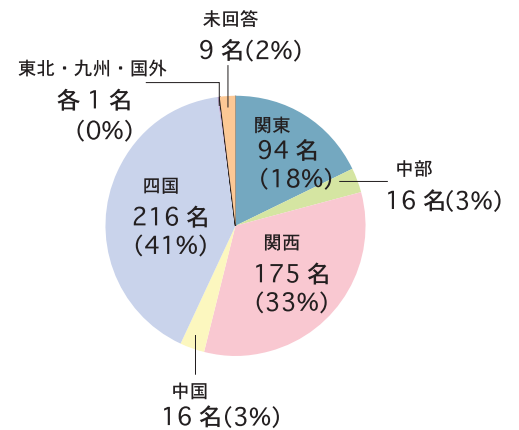
Q2. 年齢

	(人)
～10代	10
20代	80
30代	144
40代	160
50代	82
60代	43
70代	6
未回答	4



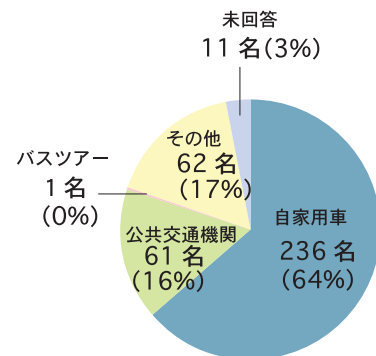
Q3. 出身地

	(人)
東北	1
関東	94
中部	16
関西	175
中国	16
四国	216
九州	1
国外	1
未回答	9



Q4. しまなみへの来訪手段

	(人)
自家用車	236
公共交通機関	61
バスツアー	1
その他	62
未回答	11



(「その他」と答えた方の来訪手段)

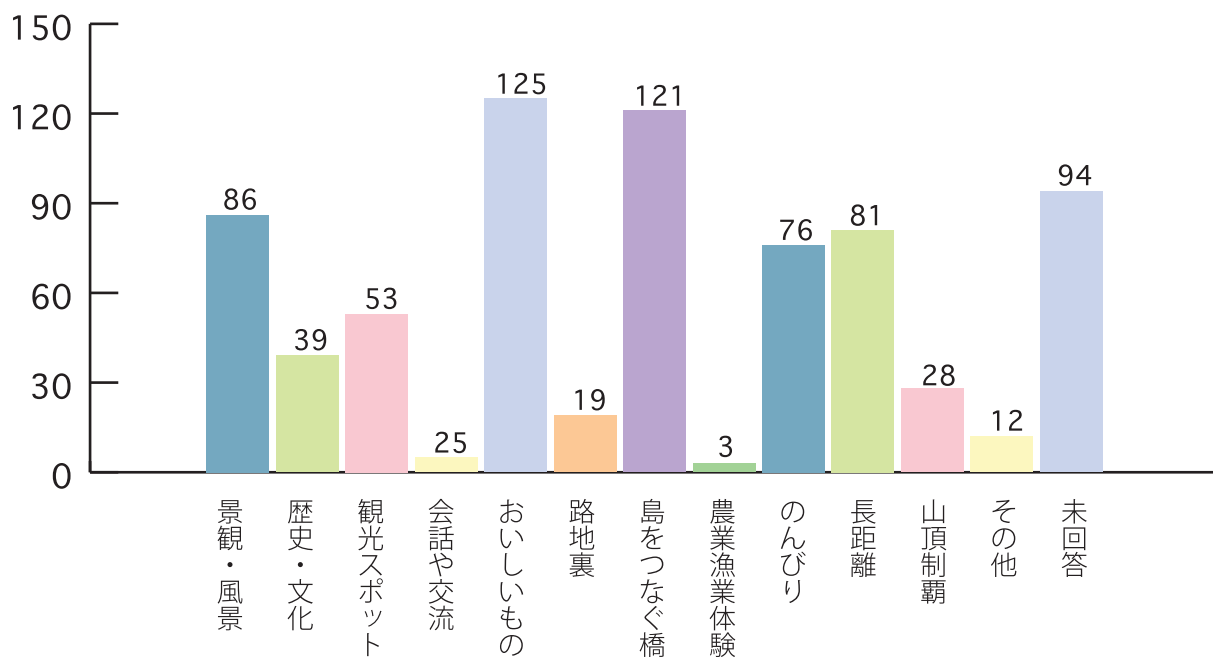
- ・ サイクルトレイン (19)
- ・ 自転車 (8)
- ・ 自家用車 + 自転車 (1)
- ・ フェリー + 自転車 (1)
- ・ 電車(輪行) + 自転車 (1)
- ・ レンタカー (3)
- ・ 公共交通機関
 - ・ 電車、新幹線 (3)
 - ・ フェリー、船 (6)
 - ・ 飛行機 (1)

【今回のサイクリングについて】 * 複数回答

Q5. サイクリングの魅力・楽しみ

(人)

景観・風景	86
歴史・文化	39
観光スポット	53
会話や交流	25
おいしいもの	125
路地裏	19
島をつなぐ橋	121
農業漁業体験	3
のんびり	76
長距離	81
山頂制覇	28
その他	12
未回答	94



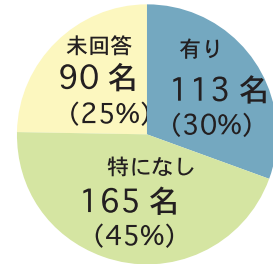
(「その他」と答えた方の意見)

- ・ スピード感
- ・ 達成感
- ・ 写真を撮ること
- ・ 信号、車が少なく走りやすいこと
- ・ 空気がきれいなこと
- ・ 空の色、雲の白
- ・ お遍路 (文化)
- ・ 自分の体力のため
- ・ 健康、家族サービスのため

Q6. しまなみで不便に感じたこと

(人)

有	113
特になし	165
未回答	90



(不便なところが「有る」という方の意見)

○橋の料金について

- ・ 料金 (往復 500 円) が高い (4)
- ・ 橋ごとの料金所 (3)
- ・ 有料であること (無料化してほしい)
- ・ 料金の支払が面倒 (代金を取り出す 作業一旦自転車を降りないといけ ないこと) (4)
- ・ チケットを渡すのが不便 (カードにしてほしい)

○自転車道、道について

- ・ 道が悪い、傷んでいる (5)
- ・ 路肩の舗装の悪い所がある
- ・ サンライズ糸山から来島海峡大橋への連絡橋がデコボコ。パンクが怖かった。
- ・ 自転車道の整備が不十分なこと
- ・ 所々にある小さな段差
- ・ 道が狭いこと、細過ぎる道があること (2)
- ・ サイクリングロードが途切れること
- ・ サイクリングロードに 砂がある こと
- ・ 夜、暗いこと (2)
- ・ 電気、カーブミラー が少ない
- ・ 自転車道が分かりにくい (6)
- ・ 道路標識が少ない、分かりにくい こと (3)
- ・ 道案内、案内板の判りにくいところあり
- ・ 愛媛側に入ると、ブルーのラインがなくなる。
- ・ ルート表示が途切れる (2)
- ・ 道に迷っている人がいた
- ・ 一般道は坂道が多く整備も十分でない
- ・ 坂道がきつかった (糸山のループ等)
- ・ 橋の直前に必ずある登り坂、体力のない人は困る (3)
- ・ 今治市内の道が分かりにくい、糸山から自動車道入り口が分かりにくい、標識不足
- ・ 橋の入口が分かりにくい
- ・ しまなみまでアクセスする自転車道
- ・ 道が分かりにくい。もう少し看板などがほしい。
- ・ 坂道
- ・ アップダウンが多いこと
- ・ 自転車が多いこと
- ・ マップがない

○マナー

- ・ マナーの悪いサイクリストがいる

○交通

- ・ フェリーの時間が分かりにくい。
- ・ 駐車が尾道側に少ないこと。
- ・ 今治からのフェリーがない。
- ・ 気軽に自転車を片道、運びたいが難しいこと
- ・ 気軽にサイクリングが楽しめるように、船便を増やす、バスに自転車を載せやすくするなどしてほしい。

○トイレ

- ・ トイレが少ない、ない (9)
- ・ トイレを増やして欲しい
- ・ 公衆トイレがなくて困った
- ・ 公共のトイレ案内がほしい
- ・ トイレの情報が少ないこと

○トラブル

- ・ パンク(3)
- ・ パンク修理
- ・ パンクしやすい=異物が多い
- ・ 自転車の故障
- ・ 空気入れを忘れて買うところが無く困った。タイヤが切れたけど買うところが無かった
- ・ 見知らぬ土地での怪我
- ・ 自転車店が沿道にないこと
- ・ レンタサイクルが未整備

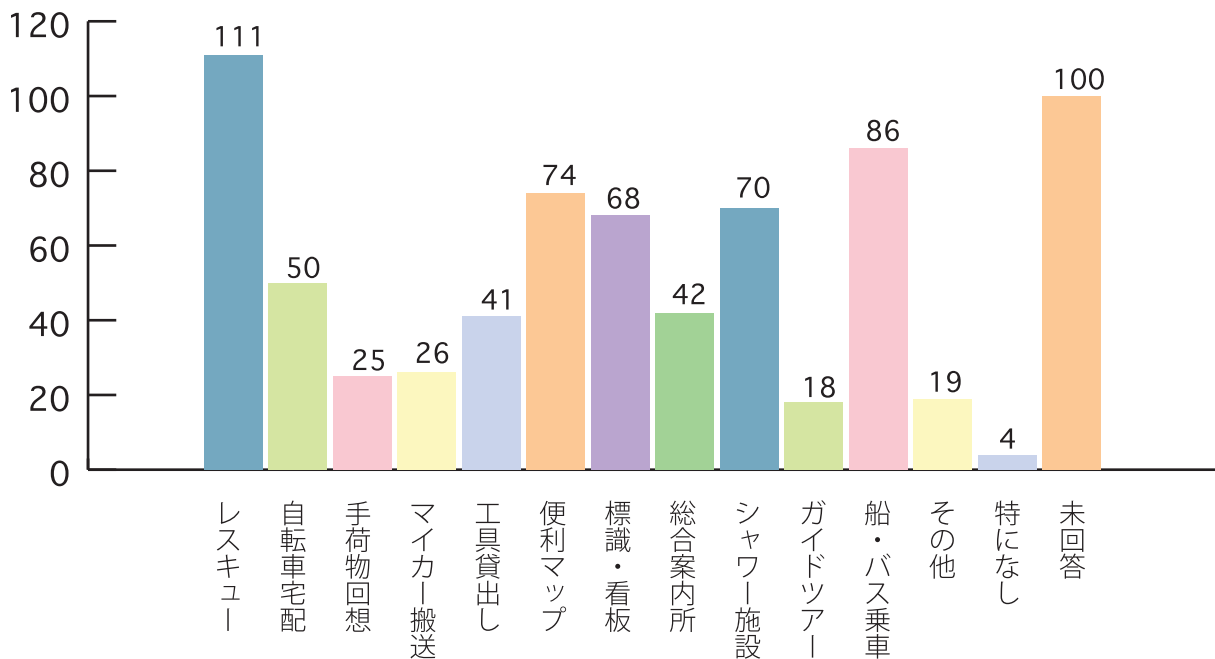
○休憩ポイント

- ・ 休憩所(2)
- ・ 各休息場所に自転車スタンドの設置
- ・ マリンオアシス伯方でスポーツ車の駐輪スタンドが無く不便だった
- ・ 急な雨に雨よげができる所があればありがたいと思う。
- ・ コンビニが少ない (2)
- ・ カフェがない、カフェが欲しい (2)
- ・ 食事処が少ない (2)
- ・ 昼ごはんが少ない
- ・ 電車の便が少ない
- ・ 下田水⇄今治フェリーが無くなった
- ・ フェリーが無くなったこと (大坂 - 今治)
- ・ しまなみ海道に行くまでの交通手段
- ・ 自家用車で来たときの駐車場
- ・ 宿泊場所の情報
- ・ 片道だけのサイクリングができないこと

Q7. 希望するサイクリングサービス * 複数回答

(人)

レスキュー	111
自転車宅配	50
手荷物回想	25
マイカー搬送	26
工具貸出し	41
便利マップ	74
標識・看板	68
総合案内所	42
シャワー施設	70
ガイドツアー	18
船・バス乗車	86
その他	19
特になし	4
未回答	100



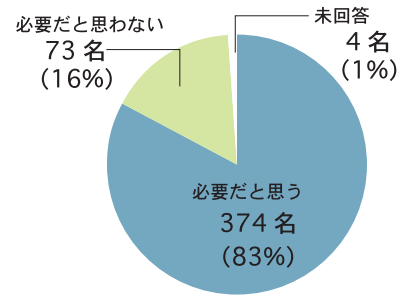
(「その他」と答えた方の意見)

- ・ 自転車旅行をする人向けの野宿ポイント (東屋など) の情報
- ・ メンテナンスも可能なカフェ
- ・ 尾道と同じサイクリング向け誘導ライン (ブルーライン)
- ・ レンタサイクルはあるが自転車屋さんがいない
- ・ タンデムや電動も乗り捨て可能に!
- ・ 温泉施設
- ・ しっかりと大事に扱ってほしい
- ・ 総合案内
- ・ ロッカー (尾道駅周辺にロッカーが少ない)
- ・ 自転車を乗せられる今治~尾道直行便。
- ・ 船の輸行をしやすくしてほしい。バスのような船で後ろに積めるか分からない。また、傷つかないか心配。
- ・ 電動アシスト自転車バッテリーの委託充電 (移動時間中に充電したい)
- ・ ライディング指導
- ・ トイレ、休憩所、宿、コンビニ、地元の店等を載せたマップ
- ・ トイレ(2)
- ・ 竹原⇄今治(波方)フェリー
- ・ 温泉が糸山にあると良い
- ・ とびしまとの連携

【荷物運搬について】

Q8. 日中、不要な荷物の運搬について

	(人)
必要だと思う	374
必要だと思わない	73
未回答	4



（「思う」と答えた方の意見）

- ・ 身軽に自由に行動できる。快適にサイクリングできる (13)
- ・ 荷物はサイクリングの邪魔だから
- ・ 県外から宿泊してサイクリングする場合、サービスがあれば気軽に参加できる (3)
- ・ 遠くから来る人には必要 (2)
- ・ 1泊以上の時はあれば便利。
- ・ 遠方から来る人は、観光して帰りたと思う。
- ・ 尾道から今治まで走りたい時に荷物が邪魔になる。
- ・ 行動範囲が広がる
- ・ ロングライドをはじめる時に、荷物の管理が気になるから
- ・ 荷物があると疲労度が違うから (4)
- ・ 荷物を持つてのサイクリングは危険だから。
- ・ あったら便利。助かる。(5)
- ・ あれば便利だし、料金によっては使うと思う。
- ・ 遠方から来られた方はお土産をたくさん買いたいと思うから
- ・ 土産が思いなので (3)
- ・ 手土産をもらって邪魔になるから。
- ・ みかんをもらって、重たかったから。みかんが落ちて大変だったから (4)
- ・ みかん狩り体験等で増えた荷物を預かってくれたのはとても助かった。
- ・ 途中で買いたいものがあって買ったとき
- ・ 重い。観光に邪魔。全部持ちきれないから。(3)
- ・ 楽、戻らなくてもいいから
- ・ 様々なサイクリングイベントで導入されているから
- ・ 旅行ではやはり荷物が大変!! このサービスがあったらもっと行きやすくなる!!
- ・ 雨天時など、天候変化があった時にありがたい
- ・ レンタサイクルで走る場合、便利そう。
- ・ マウンテンバイクなどでは運び辛いから。
- ・ 途中で荷物を取りに帰るのは効率が悪い。
- ・ 一般車以外は買い物カゴがついていないから。

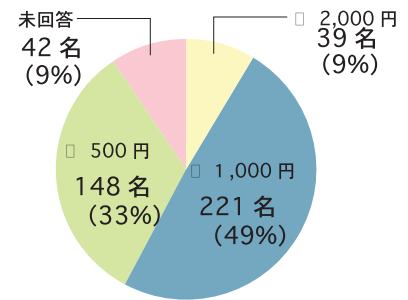
（「思わない」と答えた方の意見）

- ・ それ以外のサービスに力を
- ・ 荷物は最少にとどめているので (4)
- ・ 不要なものは持っていかないから
- ・ 車載するので (2)
- ・ 出発地に帰ってくるため
- ・ 基本的に往復するので
- ・ スピードを出さないから
- ・ 便利すぎると混雑したら嫌だ
- ・ 荷物は最小限にして「自分の荷物は自分で持つ」というのも自転車で遊びに行く醍醐味かなと思う。
- ・ 荷物を極力控えてゴールまで運ぶのもサイクリングの味わいの一つだと思うから
- ・ 分からない
- ・ 地元なので往復できるから
- ・ ゴール地点がどこになるかわからないから
- ・ 自家用車があり、それに積むので (2)

Q9. 不要な荷物・ボストンバック 1 個程度の運搬料金
(人)

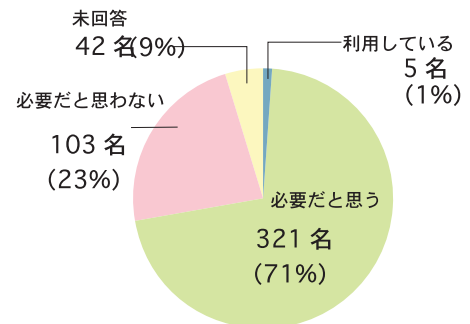
1 個 2,000 円まで	39
1 個 1,000 円まで	221
1 個 500 円まで	148
未回答	42

- ・料金によって決めたい



Q10. マイ自転車のしまなみへの運搬について
(人)

利用している	5
必要だと思う	321
必要だと思わない	103
未回答	21



(「既に利用している」と答えた方)

- ・サイクリング ヤマト便→1,600 円～2,000 円

(「必要だと思う」と答えた方の意見)

- ・車で行ける人には不要だが、電車の人は欲しい。
- ・都会の人には必要
- ・レンタサイクルではイマイチ。
- ・GW、SW等、レンタサイクルが全車貸し出しになる恐れのあるときのみでも。

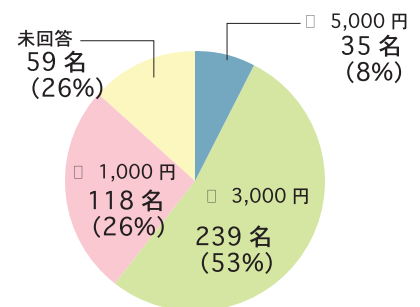
(「必要だと思わない」と答えた方の意見)

- ・キズがイヤ
- ・輸送するからいい

Q11. マイ自転車の運搬料金
(人)

1 個 5,000 円まで	35
1 個 3,000 円まで	239
1 個 1,000 円まで	118
未回答	59

- ・もっと高くてもいいくらいです！
- ・距離にもよる。
- ・安い方が良いが料金によって決めたい

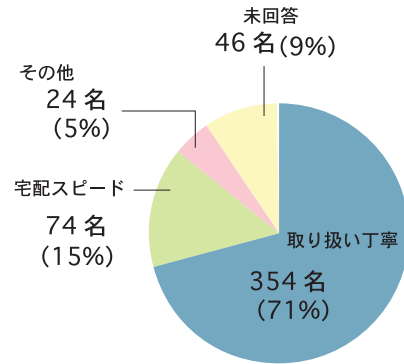


Q12. 運搬業者に求めること

* 複数チェックしている方が数名います

(人)

取り扱いの丁寧さ	354
宅配のスピード	74
その他	24
未回答	46

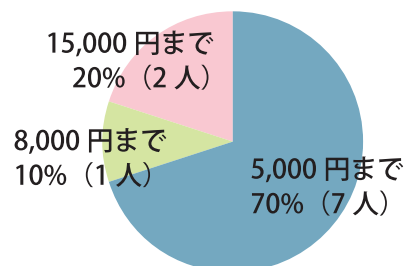


- ・ 自転車は分身 丁寧に。雑な仕事はサービスにならない (4)
- ・ 価格の低さ(2)
- ・ 気軽に利用できること
- ・ 便利さ
- ・ 指定日時に遅れないこと 時間の正確さ (5)
- ・ 確実性(3)
- ・ もしものときに電話一本で助けに来てくれること
- ・ 正確さ
- ・ 簡易梱包
- ・ 梱包材
- ・ 安全性
- ・ 保障
- ・ 旅行先で、組み立て、メンテナンスをしてくれると良い。
- ・ 配達時間の事前連絡
- ・ 預けてどのくらいで届くのが明確に分かった方がいい

MY 自転車運搬サービスに関するアンケート

Q1. 利用料金の希望

	(人)
5,000円まで	7
8,000円まで	1
15,000円まで	2
その他	0



Q2. 利用後の感想（満足だったこと）

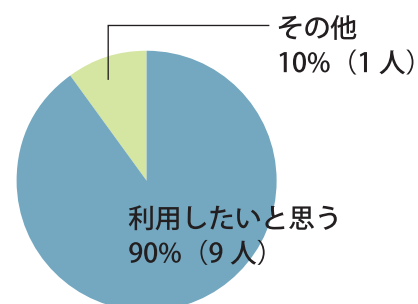
- 荷物が少なく移動が出来た
- 組立までしてもらい、助かった
- 手軽に目的地まで来れた
- いつもは輸行だが、楽に目的地に行けた
- 運搬終了後のケアもあり、戻ったときにベストな状態で乗れた
- 走り終わってから疲れていても自転車を運んでもらえて楽だった
- 自転車店の対応から現地での組立までスムーズだった
- 往復が楽だった

Q3. 利用後の感想（不安・不満足だったこと）

- 自転車がこわれずに届くか心配だったが、無事に届いてよかった
- もう少し、事前の発送について、時間的に余裕があると助かる

Q4. サービスの今後の利用希望

	(人)
利用したいと思う	9
利用したいと思わない	0
サービス内容による	0
その他	1



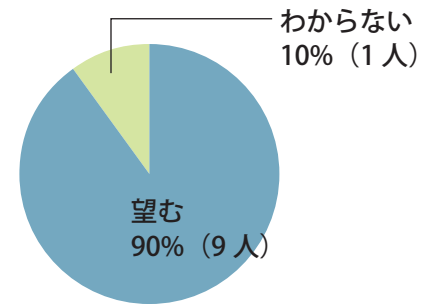
その他と答えた方の意見

- ・イベントでは使うが普段は自分で選ぶと思う

Q5. サービスの継続希望

(人)

望む	9
望まない	0
わからない	1



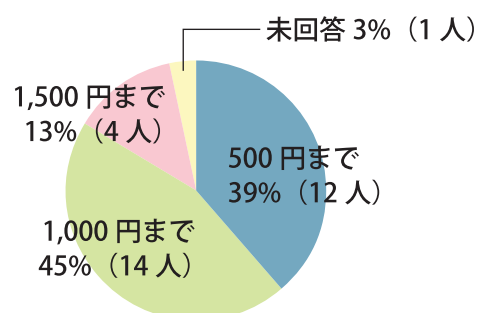
Q6. 「手荷物搬送サービス」のネーミング

- 輸行代行
- ラクラク伴走便 (2)
- しまなみ楽パック
- サイクルしまなみ便
- てぶらでGO！しまなみへ

手荷物運搬サービスに関するアンケート

Q1. 利用料金の希望

	(人)
500円まで	12
1,000円まで	14
1,500円まで	4
その他	0
未回答	1



Q2. 利用後の感想（満足だったこと）

- 準備の時にあまり細かく考えずに済む。
- 荷物の量を気にせずに、ある程度の物をたくさん持っていける。
- 荷物をたくさん持込むことができた (2)
- 宿泊荷物は助かる
- 荷物を気にしないで縦走できた。
- 荷物の運ぶ手段が分からなかったからよかった。
- 荷物の心配を朝しなくて済む所が良かった。
- 楽にサイクリングができた。(3)
- 楽しく楽に走れる
- 身軽に走れることが良かった (4)
- 身軽さ・安全性・気楽に荷物を気にせず自転車に乗れる
- 動きやすい
- 荷物が少なくなった。
- レースの準備に集中できた。
- 自転車に集中できる
- サイクリングをしても快適に楽しめる
- 行動範囲が広がり身一つで動ける
- 帰りの心配が無いのでありがたい
- 無料で運んでくれた

Q3. 利用後の感想（不満足だったこと）

- 取りに来た時間が少し遅かった
- 荷物を預けた後に、荷物内のことが自由にならない (自分の反省)
- 必要な手荷物を取り忘れた時が不安

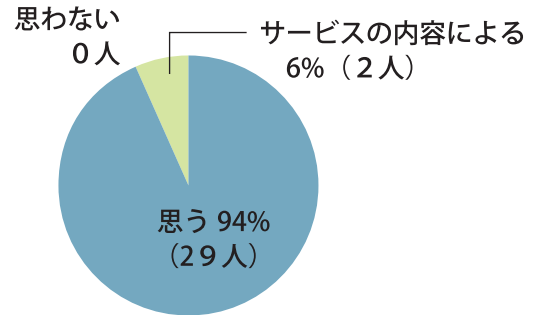
Q4. サービスの利用希望

(人)

思う	29
思わない	0
サービスの内容による	2

サービスの内容によると答えた方の意見

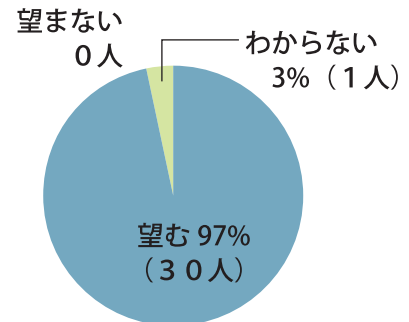
- ・イベントでは使うが普段は自分で選ぶと思う



Q5. サービスの継続希望

(人)

望む	30
望まない	0
わからない	1



Q6. 「手荷物搬送サービス」のネーミング





- しまなみ便
- しまなみ橋渡し便
- みがるでしまなみ
- 手荷物フライングしまなみ
- とびうお宅急便 in しまなみ
- ラクラクてにもつびん
- シクロツーリズム搬送サービス
- ラクラク手荷物便
- しまなみサイクル (楽々) パック
- ぷらっとタンデム
- 軽々サイクリング
- せとうち海道
- 楽々サイクリングサービス
- (キャリーパック) CAPAC
- 身軽にサイクリング、宿配便
- 島から島へ
- 楽々サイクリングパック
- ふらっとタンデム
- ありがた便・ハートのキュービット便
- らくらくサイクリングサービス

4. しまなみ地域 自転車エコツアープログラム造成事業（地球環境基金助成事業）

世界有数のサイクリングコース「しまなみ海道」における自転車ツアーを一步進め、生物多様性に富む瀬戸内の魅力を学ぶ自転車エコツアープログラムの開発にチャレンジした。本会の自転車ツアー希望者は、鳥瞰的に景観を見るだけでなく、健全な生態系をもたらす暮らしの豊かさを学習する意欲を潜在しており、住民交流をきっかけに自らの暮らしを自然に調和させる重要性に意識的になる傾向が強くみられる。これを受け、これまでの散発的な環境教育活動を、体系的なツアーに仕立て、しまなみ地域で急増するレンタサイクルによる自転車体験者にツアー参加を呼びかけ、日常生活での自動車利用を自転車に転換する動機付けも含め、環境配慮型ライフスタイルへの変容と習慣化を促す取り組みとなった。

（1）自然環境調査

環境保全の専門的知識を有するNPO法人、地域住民が構成員の自然観察グループと協働し、大三島を中心に、今治市陸地部を含む今治市側のしまなみ海道沿線の身近な環境を目視で調査し、塩田跡、干潟、湿地、屋敷林、海岸、里山等のテーマごとに保護すべき希少種をリストアップした。写真撮影による種の同定を進め、資料化する中で、保護エリアの把握と保護の対策が共有でき、自然案内人（トコロジスト）養成やエコツアー造成の基礎データとすることができると共に、環境保全の具体的な目標、対外的な説明資料とすることができた。



	日	所	内容	
第1回	4/23(土)	大三島 大島	吉海町福田海岸付近の元カブトガニ産卵地付近の検 索調査、イトクズモ調査。大三島中南部に位置する台 海岸の海浜植物の調査。	
第2回	4/29(金)	大三島	大三島中南部の干潟の植物、動物の調査。台ダム付 近の里山としての植物調査。	
第3回	5/6(金)	大三島	大三島中南部の台、入日の滝上流の湿地植物調査。 イシモチソウ、モウセンゴケなどの湿地植物の生態調 査。	
第4回	5/14(土)	大三島	台海岸の干潟部の貝類、カニ類、ゴカイ類などの生 物調査及びアマモの生育状態の確認。	

第5回	5/23(月)	大三島	鷲ヶ頭山のササユリの分布生態調査。目視による個体数の調査。今年度の生育状況調査。	
第6回	5/28(土)	大三島	大三島全体の干潟調査、干潟とのつながりを確認するための照葉樹林内の生物調査。畑の生物の観察や循環についての調査。	
第7回	6/8(水)	今治市 陸地部	今治市陸地部の海岸調査、今治城汽水の堀の生物調査。	
第8回	6/12(日)	今治市 陸地部	今治城汽水の堀の生物調査。ウミウシ類の詳細調査ほか。	
第9回	6/21(火)	今治市 陸地部	今治市陸地部の東岸の織田が浜、唐子浜の海岸植物調査。	
第10回	6/29(水)	今治市 陸地部	今治市陸地部の東岸の織田が浜、唐子浜の海岸植物調査。	
第11回	7/4(月)	大三島	大三島の干潟調査、鷲ヶ頭山のササユリ盗掘跡の確認調査。	
第12回	8/11(木)	今治市 陸地部	今治市陸地部の東岸の織田が浜の海岸植物調査。ウンランの分布生態調査。目視による個体数の調査。	

第13回	8/29(月)	今治市 陸地部 大島 伯方島	今治市陸地部のため池や水田の水生植物調査。大島、伯方島の原生林・二次林の調査。	
第14回	10/20 (木)	今治市 陸地部	今治市陸地部海岸線全域の植物調査。バジク、ツブキの分布生態調査。目視による個体数の調査。	
第15回	11/2(水)	今治市 陸地部	大島の湿地性植物、秋の鷲ヶ頭山、安神山の秋の植物調査。台の田んぼでダルマガエル調査。	
第16回	1/22(日)	大三島	調査結果をとりまとめるにあたって、本事業の調査メインフィールドとなる大三島の地元住民との報告書の内容確認及び、現地での最終の生物現状について、調査。	

(2) 自然案内人(トコロジスト)育成と自転車エコツアーの造成

(1) 「自然環境調査」の進捗に鑑み、希少種が集中するホットスポットをフィールドにおいた学習会を企画したり、環境調査の取りまとめを報告したりと、環境調査から見えてきた地域特色と連動した講座を開催した。連続講座ではないながら、毎回、参加するメンバーがおり、来訪する旅行者に豊かさの本質である里山の機能・意義を解説できる地域住民(トコロジスト)を育成し、環境教育と保護保全を両輪で進めるしくみ構築のきっかけづくりができたことに意義があった。特に4回目、5回目はフィールドワークを盛り込み、現場を自転車や徒歩で観察しながら、ガイドスキルを実践できた。6回目は、これまで参加がなかった歴史・文化保存会などの担い手に精力的に呼びかけ、環境保全、エコツアーの取り組みへの関心を喚起できた。

	日	内容	
第1回	4/29(金) 大三島公民館 他	愛媛県の県民の「生物多様性」の認識度がまだまだ低い中、希少種は里地里山にあり、意識啓発の重要性があることをおさえた。その後、「トコロジスト」という造語について説明。「しまなみ=トコロ(場所)」の専門家として、しまなみのことを学び、伝えていく担い手になる目標を共有した。	
第2回	5/28(土) 大三島公民館 他	地域の自然、生物を保全する入口として、里地里山の調査が必要であり、調査に基づいたプログラム(エコツアー)の実践をすることが基本であることを共有。大三島の海岸植生の観察実習をしながら、自然環境と社会環境の調査の両輪が必要なことをおさえた。	

第3回	7/2(土) 今治市民活動センター	エコツアープログラム立案の基本を学んだ。「豊かな自然を伝えたい」との“思い”を、ツアーに仕立て、保全等の行動変容という成果を導くことを共有。グループでワークシートを活用してプログラム化。その後、プログラムが環境保全につながる有効なものかどうかの検討指標を共有した。	
第4回	8/7(日) 大三島台海水浴場	これまでの地元交流学習会参加者の有志が、地元関係機関への協力、広報等のプロセスから参画。地元住民を公募する形で開催した。浜辺観察会を終え、子ども達を中心に周遊サイクリングを実施。台ダム湖畔に生えている植物や小さな虫を観察した。	
第5回	1/29(日) 大三島公民館 台海水浴場周辺 他	住民がつくる環境保全マップをテーマに座学とフィールドワークを展開。地図や写真で分かること、聞き取りで分かること、フィールドでの調査(足を運ぶこと)で分かることを整理。後半は、実際のフィールドワーク結果(写真やメモ)をマップに落とし、マップづくりのプロセスを学んだ	
第6回	2/19(日) 大三島公民館 他	次年度以降のガイド機能や環境保全の取り組みを主体的に担おうとするメンバーが、地元にて今年度の取り組みを報告する形式で参加者を募り、実施。環境専門家と環境調査に同行し、トコロジストとしての中核をになってきたメンバーが持続可能な環境保全のしくみを提言した。	

(3) 自転車エコツアー参加者募集と実施

(2) 「地元交流学習会」の参加メンバーが、トコロジストとしてエコツアーガイド(現地アテンドとして人と自然のつながりを解説)を担当。実地で学ぶスタイルを構築できた。ツアー展開の中で、環境保全を啓発するための伝授ツールとして、ガイド用フリップやマップを組み立てていく作業を盛り込み、成果物創出を目指した。

本会がこれまで実践してきた自転車ツアーを、環境教育としての体系的なエコツアーに仕立てるチャレンジ活動として、実験的にツアーを実施した。しまなみ地域で急増するレンタサイクルによる自転車体験者にツアー参加を呼びかけると共に、これまで実践のなかった地元の学童を対象としたツアーをアレンジし、環境配慮型ライフスタイルへの変容と習慣化を促した。

■第1回自転車エコツアー「自転車で探す里山エコツアー 大三島に咲く幻のササユリを目指せ！」

日：5/29（日） 所：大三島

●スタート 大三島集合→大三島公民館へ



多々羅しまなみ公園をスタート。約8km走り、大三島公民館に到着。地元の「大三島の自然を守る会」の協力を得て、手づくりのお弁当づくりにチャレンジ！地産食材の豊かさに触れる。

★ポイント：地域独特の食材・食文化をトコロジストから伝えること。

●観察ポイント 鷲ヶ頭山へ



山深い道を乗り越えて山頂をめざす。途中、道端で見つけた植物についての解説も聞きながら、山頂へ。山頂では、希少種のササユリを観察。

★ポイント：ササユリの希少性、外来生物による生態系のかく乱を学ぶ。鳥獣被害、盗掘など、保全地元住民が普段気になる話題にも触れ、保全活動の芽生えを促進。

●振り返り in大三島公民館



なぜ大三島に希少種ササユリが群生しているのか学ぶ意見交換会。塩づくり産業に必要な燃料となる木を伐採する林業。山に人が入ることで、山が維持され、光が入ることで、ササユリが生き残ってきたことを確認。

★ポイント：里地里山について学ぶ。人間の働きかけの大切を共有。

■第2回自転車エコツアー「今治城のナゾをときあかせ！」

日：7/24（日） 所：今治市陸地部（今治城）

●スタート サンライズ系山集合→大浜漁港・商店街へ



子ども達対象のツアー。冒頭に、「生態系の多様性を学ぶ」「自転車の魅力を知る」という目的を確認。

★ポイント：途中、海洋汚染、温暖化の弊害を学ぶ。潮の流れが育む海洋生物には興味津々。

●魚の学習 in今治商店街



海とつながり栄えたまちでも「魚離れ」が進んでいる現実。実際に魚を見て、触る。

★ポイント：魚の流通・加工等、地元産業を学ぶ。次の観察ポイントへの関心の喚起。

●観察ポイント in今治城



石灰岩と花崗岩が使われる石垣を観察。時代を超えて生息する生物について学ぶ。独特の生態系を観察。

★ポイント：歴史文化の保全の視点も盛り込み、里山としての生態系維持を学習。

●振り返り in今治商店街



感じたことを「おもいでノート」に。子ども達自身が取り組める目標の定着。

★ポイント：自分の目で確かめ、それを伝える。ツアー終了時の振り返りは重要。

■第3回自転車エコツアー「海のヒミツを解き明かせ！」

日：8/21（日） 所：今治市陸地部（織田ヶ浜）

●スタート サンライズ系山集合→織田ヶ浜へ



子ども達対象のツアー。冒頭に、「生態系の多様性を学ぶ」「自転車の魅力を知る」という目的を確認。

★ポイント：途中、沖のアマモ場の解説をし、海と暮らしの関係について学習。

●観察ポイント in織田ヶ浜海水浴場



織田ヶ浜で見ることのできる希少植物を解説。自然が残る砂浜の重要性について学習。

★ポイント：希少種の解説では、生物多様性のレベルについて分かりやすく説明。

●屋内体験 クラフト



雨天プログラムとして、海岸観察で収集したグラス等を使ったフォトフレームづくり

★ポイント：荒天時の対応プログラムにも、エコツアーらしい学びと気づき。

■第4回自転車エコツアー「大人の体験カフェ」

日：11/3（木） 所：大島

●スタート サンライズ系山集合→大島へ



自然と一体感を感じられる自転車で豊かな自然の背景にあるものを探るという目的を確認。

★ポイント：大島周遊。自転車ならではの行動エリアの大きさを活かしたツアーアレンジ。

自然環境や生物の種類の多さを確認

●サイクリング途中

随所できまりながら、季節探し。秋はどんぐりの食と歴史の学習がピッタリ。

★ポイント：複数の種類のどんぐりを収集。葉・実、それを食べる動物から食物連鎖を学習。

●学習会 in南浦（ランチポイント）



島々で増えるイノシシについての説明をかねてランチ。

★ポイント：海から里へ続く生態系への意義、外来種と在来種の競合等を話題に。

●体験活動 どんぐりクッキーづくり・フォトフレームづくり



自分達で集めたどんぐりでクッキーづくり、まつぼっくりなども使ったフォトフレームづくり。

★ポイント：手づくり体験のアレンジは心に残るポイントの一つ。

(4) 環境配慮型生活の提案

自然案内人（トコロジスト）が育つ中、各島の特性を伝える活動とするため、大三島・大島で1日イベントとして実施。また、尾道市を出発し、各島（特に大三島、伯方島にはブース設置）を周遊する2日間のイベントを、サイクリング愛好者募集型で実施。時期も成果物の概ねの完成を待って、それを活用した展開にチャレンジした。

大三島、大島で行ったイベントでは、レンタサイクルステーションでの呼び込みなどを中心に立ち寄りを促し、自転車旅行者はもちろん、地元住民にもたくさんの立ち寄りをいただいた。大島では、地元の歩き遍路イベントの参加者の中で、自転車や環境保全に関心のある方が多く足をとめてくださった。

尾道市を出発し、各島（特に大三島、伯方島にはブース設置）を周遊する2日間のイベントは、地元の自転車集客イベントに合わせて、給水ポイントを定点で設け、事業の成果を伝えるという明確な目標を持って取り組み、また、サイクリスト愛好者の有志を募集型で募り、地産食材の提供を地元住民が行う形で、多くの方にしまなみの生物多様性の意義・魅力を伝えることができた。

①製作したガイドツールを活用した

自然環境の変化や保全のあり方の啓発



視覚的に伝えるツールは有効との確信

②スポーツバイクの啓発



バイクのフィッティングや乗り方の説明



スポーツバイクを多種用意。関心が高まる

③マイボトルへの給水による

生活習慣改善の啓発



マイボトル持参の呼びかけと給水

④地産食材の魅力の啓発



地元住民による地産食材活用へのアピール

★フリップ・マップの編纂

エコツアー時に地域の里山の生物多様性を分かりやすく伝えるツール

①フリップ



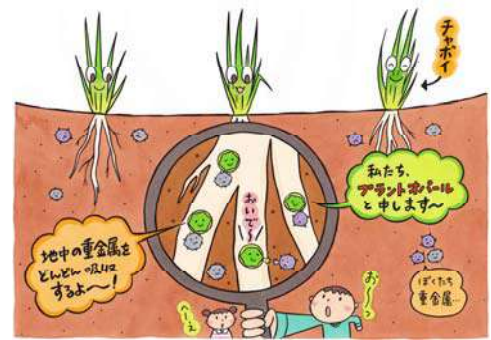
外来種の問題



アンダーユース



オーバーユース



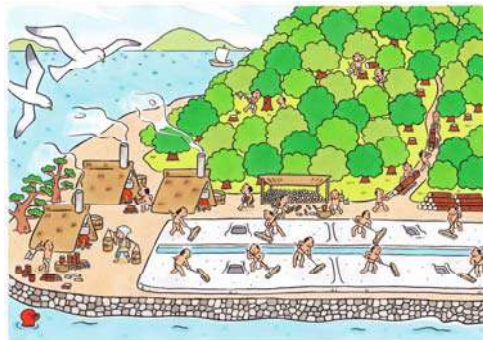
ファイトレメディエーション



大三島の地質










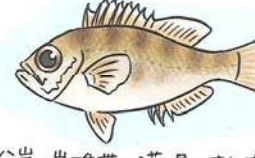








トコロジストに変身する方法



昔の大三島の写真

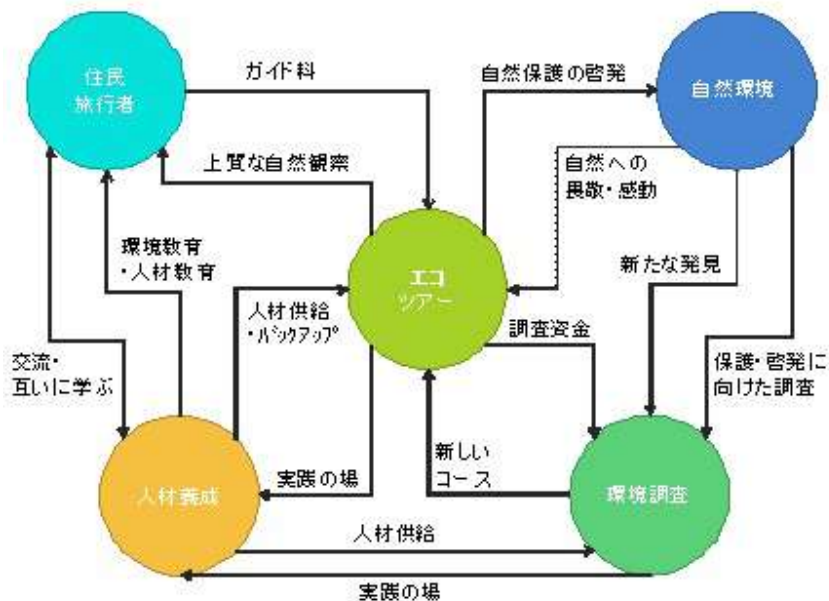
今治散策で
見つけてみよう

生き物図鑑

<p>コモンウミウシ 〈イロウミウシ科〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本全国の波の静かな場所に見生。  <p>今治城のお堀でも、最近よく見られるようになりました。白と青のコントラストが美しく、今治城にすむウミウシの中でも、特に目立っています。</p>	<p>フリリトゲアマフラシ 〈アマフラシ科〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 本州中部以南の砂泥底に生息。  <p>今治城のお堀にも生息しています。体にはきれいなブルーの小さな模様散らし、海藻のような樹状突起に覆われているのが特徴です。刺し教を与えると紫色の液を放出します。</p>	<p>クロシタナシウミウシ 〈クロシタナシウミウシ科〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本全国の石縫まわりに生息。  <p>今治城のお堀でよく見られるウミウシです。黒い体に黄褐色のフリルが特徴。お堀の中で産卵することが確認されています。「海のリボン」とも言われるウミウシの卵のうちは、何万個ものたまごが入っています。</p>	<p>ケヤリムシ 〈ケヤリムシ科〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 本州中部以南から、九州までの浅い海に生息。  <p>こんな形ですが...じつはゴカイの仲間です。</p> <p>名前の由来は、大名行列の先頭を飾った毛櫓から。今治城のお堀では最近数を増やしています。</p>
<p>クロダイ 〈タイ科〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国の沿岸に生息。  <p>おいらは雑食性☆小動物から海藻まで幅広く食べるよ〜!</p> <p>「チヌ」とも呼ばれ、魚同の仲間の大型の魚です。釣りの対象として人気があります。今治城のお堀でもよく見られる魚です。</p>	<p>コノシロ 〈ニシン科〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 東北地方南部以南に生息。  <p>背びれの最後の軟条が糸状に伸びているよ。</p> <p>今治城では大変よく見られます。小さいものはコハダとも呼ばれ、西京漬けにしたものが珍重されています。焼いて食べるのが少ないのは、「この城を焼く」に通じるとして武家が嫌ったためとも言われています。</p>	<p>アコ (キジハタ) 〈ハタ科〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国の沿岸に生息。  <p>目は緑色でキジハタの語源となつたキジ色をしています。日本の他の地域では高級魚で、一般の魚屋の店頭には並ぶことはありませんが、今治では比較的漁獲量が多く、スーパーでも買える大変おいしい魚です。</p>	<p>メバル 〈フサカサゴ科〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道から九州沿岸の岩礁域に生息。  <p>沿岸の岩礁帯の藻場にすむ肉食の魚。釣りの対象魚として人気があります。今治沿岸では沖流れが速いため、身がよく締まり、小さいメバルでも産卵していることがあります。</p>
<p>ハマビシ 〈ハマビシ科〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 本州〜四国にかけての温暖な海岸に生息。  <p>砂浜に生える海岸植物。7月〜10月頃に黄緑色の小さな花をつけます。花のあとには直径1cmくらいの硬い実のある実をつけます。四国では、織田ヶ浜でしか見ることができません。</p>	<p>ウツラン 〈ゴマノハサ科〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道・本州・四国にかけての海岸に生息。  <p>海岸の砂浜に生える多年草。8月〜10月頃に咲く花がランの花を思わせるのでこの名がつけました。四国では、香川県と織田ヶ浜でしか見ることができません。</p>	<p>ハマニガサ 〈キク科〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本全国の砂浜に生息。  <p>地下茎は砂の中をはい、葉と花の茎を出しています。4月〜10月頃に黄色い花を咲かせます。きれいな砂浜に生える植物で、砂浜の汚れや人の踏みつけ等で数が減少しており、絶滅が心配されています。</p>	<p>カワラサイコ 〈バラ科〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 本州・四国・九州の砂浜や河原に生息。  <p>茎は地表を這って広がり、黄色い花を咲かせます。風邪などの薬の原料であるサイコの根に似ているのでこの名がつけました。護岸工事等で数を減らし、絶滅が心配されています。</p>
<p>ナシキソウ 〈シソ科〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道・本州・四国・九州の海岸に生息。  <p>茎の高さは10〜40cm位で、茎の上部の葉腋に長さ約2cmの鮮やかな青い花をつけます。大変美しい植物ですが、環境の変化等で数を減らし、愛媛県では2カ所で見ることができません。</p>	<p>ヤマトマダラバッタ 〈バッタ科〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 本州・四国・九州の海岸に生息。  <p>体長30〜35mm。白っぽい地色で、暗褐色の斑模様が不規則に点状に散らばる。主にハマゴウの葉を餌としており、愛媛県では、今治周辺の砂浜でしか見ることができません。砂とよく似た色をしているのでよく見ないとなかなか見つけられません。</p>	<p>マツグミ 〈ヤドリギ科〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 本州・四国・九州に生息。  <p>アカマツ等のマツ科の植物に寄生するヤドリギの仲間。瀬戸内海では普通に見られる植物でしたが、本木病等により本木が枯れてしまい、最近ではなかなか見ることができなくなりました。</p>	<p>ミサゴ 〈ツカ科〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国に分布。 細長い翼に短い尾が特徴。  <p>海岸で魚を捕まえます。全国的には数が減少しており、絶滅が心配されていますが、今治市内の海岸では比較的数が多く、魚を捕まえるためにダイビング姿を見ることが出来ます。</p>

★持続可能な環境保全のしくみ

地元の環境保全を担う住民グループの育成と、一般市民向けのエコツアーの連動し、持続的に環境保全を進めるしくみを可視化した。一方、自転車活用のメリットとして、排気ガスを出さない乗り物、つまり地球温暖化への意識はあるものの、生物多様性の意義、教育活動には、ツアー展開だけでその重要性を伝えるのが難しいと感じる側面もあった。



愛媛新聞 平成24年2月19日

2月には「四国生物多様性会議」の発表事例に取り上げられるなど波及効果もあった。

(*「四国生物多様性会議」：10年に名古屋で開催された国連の生物多様性条約第10回締約国際会議(COP10)をきっかけに四国4県で立ち上げたネットワークが開催。)

総括

環境調査により地域固有の豊かな自然を示すデータが可視化されたこと、生物多様性の意義を伝える学習機会を連続講座で開催できたことにより、地域への啓発、人材育成が進んだ。企画・実施したエコツアーでは、徒歩よりも周遊エリアが広がる自転車を活用することで、俯瞰的に豊かな里山を体感し、希少種の保全地区等における重点的な観察会を行う等、新しいエコツアーの形を模索することができた。

エコツアー参加者に行ったツアー終了後のモニタリングは、ランダム抽出の限られた人数へのアプローチとなったが、定着しにくい環境配慮型のライフスタイルについて、コミュニケーションを深めながら再確認できる機会となり、また、ツアー等のプランニングへの参加当事者からの貴重な意見のフィードバックの機会ともなり、有意義だった。

アテンドとして活躍できるトコロジストが養成され、また、案内ツールとなる環境保全フリップが完成したことは、次年度につながる成果である。島を超えた地元ネットワークの形成には、エコツアーでの人材派遣システム、飲食の提供のしくみ等が未整備な部分があり、次年度の取り組みの目標として共有した。

報告書 別添

5. その他の自転車ツアー

① パートナーツアー

○ここで漕いで瀬戸内海（今治国際ホテル）

内容：シーカヤックとサイクリングの2つのアウトドアで瀬戸内海を満喫するツアー。

今治国際ホテル～来島海峡大橋～馬島～大島～来島海峡大橋～今治国際ホテル

実績：4月30日（土）2名

5月22日（日）2名

8月2日（火）4名

8月22日（日）4名（雨天プログラム）

○しまなみ日帰りサイクリング（道後八八・道後夢蔵）

実績なし

○しまなみスローサイクリングツアー（JR四国）

実績なし

② オーダーメイドツアー

内容：しまなみでの自転車の旅を個別にコーディネートした。

実績：「しまなみ海道ハーフライド」5月30日（月）7名（社員旅行）

「島四国をつなぐタンデムポタリング」9月4日（日）（社員旅行）

「大三島ピッツァ体験ポタリング」10月20日（木）（2名様）

③ パッケージツアー

瀬戸内2大海道をサイクリング（ANA・フジトラベル）

・「^{あきなだ}安芸灘とびしま海道」を渡る とびしま島走サイクリング

8/27(土)～28(日) 実績なし

・「しまなみ海道」へ行く ^{とうそう}しまなみ島走サイクリング

10/22(土)～23(日) 実績なし

高知新聞観光 しまなみ海道サイクリングツアー

実施日：10月8日（土）

参加者数：22名

高知新聞観光主催の日帰りサイクリングツアーにおいて、現地でのプログラム企画とアテンドを行った。自転車初心者が多く20代～70代の幅広い年齢層の参加があった。着地型商品の特徴を十分に生かし、島の文化と人々との交流を含んだ、サンライズ糸山から大島バラ公園までの往復約24kmの内容は、主催会社から次の開催を要望されるほど高評価を得た。



「来島海峡大橋」

10月、最も季節のよい時期に自転車体験の機会を提供できた。



「大島・法南寺」

島四国のお寺のひとつを訪れ、副住職に法話を聞かせていただいた。



「大島・法南寺」

お寺のスペースを借りて、二輪弁でランチタイムを提供した。

6. タンデム自転車普及活動

愛媛県道路交通規則の一部改正により、2010年8月から「タンデム自転車」が県下の一般公道で走行可能になった。全国で4例目の公道解禁で、サイクリング愛好者は勿論、視覚に障がいのある方や脚力の弱い高齢者が後部座席でサイクリングを楽しめる有益性に注目が集まっていることを受け、タンデム自転車に特化したツアーを実施し、しまなみ海道のポテンシャルを高める活動を展開した。

①第2回タンデム自転車まつり

実施日：3/24（土）～25（日）

参加者数：27名

全国からタンデム自転車愛好家をしまなみ海道に集め、尾道から今治間を1泊2日で縦断するツアーを行った。30代～60代の大人が参加。その内、親子連れ4組、視覚障がい者4名を含むユニバーサルな大会となり、タンデム自転車が来る時代への可能性との有用性を秘めた乗り物であることを立証しつつ、日本でオンリーワンの大会をしまなみ海道で開くことの価値を共通認識した。また、視覚障がい者のパイロット役をシクロスタッフで務め、人材の育成と福祉的なサポート役も担えることを内外に広くアピールできた。



「生口島」

シクロスタッフがパイロット役を努め視覚障がいのある方にも、自転車のスポーツ感を味わってもらえた。



「大島」

多種多様なタンデム自転車が14台出揃い、休息場所では試乗会なども行い、その魅力を発信した。



「大三島」

宿泊地の大三島では、夕食を兼ねた交流会を催し、タンデム自転車をキーワードにそれぞれの想いを共有した。

②前乗りパイロットの派遣

目に障がいがあるなどの理由で、自力で自転車に乗ることが難しい方からの要請を受け、前乗りパイロットを派遣し、しまなみ海道を案内した。

実績：6月2日（木）1名



東京から来た男性のタンデム自転車の前乗りを努め、来島海峡大橋を渡り、大島まで案内した。



タンデム自転車の全県解禁と、障がい者スポーツを楽しんだり、外出に使うなど、福祉利用として普及していくこと共通認識とした。

7. 物品販売

しまなみの波・山・そして時間を感じるグッズを販売した。

8. 講師派遣

5月5日（木）	今治東ライオンズクラブ主催	定例の例会時に、公道走行解禁に合わせ、共催した「ブラインドサイクリング」イベントなどを振り返りながら、「タンデム自転車」の魅力を改めて共有し、実際に試乗していただいた。
5月27日（金）	今治サーチングライオンズクラブ主催	10年半をかけて、五大陸88カ国をタンデム自転車で歴訪した経験を伝えた。また、その経験をいかして、自転車でのまちおこしに取り組む様子を伝え、自転車文化の普及の可能性を言及した。
7月28日（木）	今治ロータリー主催	定例の例会時に、10年半をかけて、五大陸88カ国をタンデム自転車で歴訪する中で感じたホスピタリティについて紹介。まちづくりの実践の基礎について共有した。
7月30日（土）	今治工業高等学校主催	インターアクト部メンバーを対象に、10年半をかけて、五大陸88カ国をタンデム自転車で歴訪した経験を伝えた。また、その経験をいかして、自転車でのまちおこしに取り組む様子を伝え、地域に関心を持つ意義について伝えた。
11月16日（水）	地域活性化センター主催	地域づくりのリーダー養成などを旨とする「地域再生実践塾 地域資源を活かした観光まちづくり」の事例提供を担当。自転車という地域固有のブランド資源をいかした持続可能な自転車による観光振興の現場を伝えた。
12月11日（日）	NPO法人きらり水源村主催	熊本県内の高校生の有志を対称にした、地域活性化に関わる人材育成の研修会を担当。10年半をかけて、五大陸88カ国をタンデム自転車で歴訪した経験をいかし、観光振興に資する活動を伝え、自分の得意分野や経験をいかし、地域に関わる意義を共有した。
12月20日（火）	環境省主催	地球温暖化対策等の観点から、都市交通に自転車を取り入れる施策を考える「bikebize会議」の第3回目に参加。自転車を活用した中心市街地再生の取り組み等を事例として紹介し、今後の施策の方向性を共有した。
11月20日（日）	愛媛県今治支局総務県民室・今治サイクリング協会主催	サイクリングとグリーンツーリズムを一体的に楽しむ「しまなみグリーンサイクリング」イベントにガイドを派遣。伯方島を周遊するタンデムコースのアテンド、コーディネートを行った。
2月6日（月）	社団法人尾道観光協会主催	しまなみサイクリングの普及を進めるために、地域の魅力を紹介し、住民との交流を促すサイクリングガイドの養成の一環で意見交換会に出席。メンテナンス技術、コースの熟知などガイドに求められる機能を助言した。
2月18日（土）	四国CBDネット主催	サイクリングツアーを活用した、しまなみ海道沿線の里山保全活動の実践を紹介。農家を中心とする住民と連携し、観光振興の際に生物多様性保全を進める必要性とその担い手育成を進めている活動のビジョンを提案した。
3月3日（土）	大久野島ビジターセンター主催	瀬戸内海を活用したサイクリングツアーの可能性を啓発。ビジターセンターの顧客を意識し、プログラム開発を行うワークショップを開催した。

9. 審議会・委員会・意見交換会への参加

7月6日（水）	東予地域広域観光推進会議 愛媛県主催	旅行業者の専門的アドバイスを受けながら、広域的な旅行商品造成について検討。地域観光振興への寄与について議論。
12月20日（火） 2月2日（木）	国際的サイクリングイベント勉強会 愛媛県観光物産課主催	自転車の聖地・しまなみへの認知度があがる中、国際的サイクリングイベント実現に向けた関係者の合意を形成する会議を開催。

10. 今治市中心市街地再生事業 事務局（事業主体：今治市中心市街地再生協議会サイクル部会）

全世界のサイクリストが憧れる「しまなみ海道」。サイクリングを楽しむサイクリストは年間5万人に達しており、今も増加傾向である。尾道を起点、今治を終点としたサイクリングパターンが多い中、来島海峡大橋の袂のステーション（観光宿泊施設）でサイクリングを終え、多様な観光等資源がある「まちなか」までへの誘致につながっていないことが地域の課題である。

そこで、既に今治市に着地している自転車旅行者を中心に市街地へ誘うしかけづくり、自転車に良好な走行環境形成などを進め、中心市街地にぎわい・交流を創出することを目指し、取組を進める「サイクル部会」を設置、本会が事務局を担った。

（1）まちなかサイクリング推進事業

中心市街地の魅力を自転車目線で見つけ、その伝え方、活かし方を検討するワークショップを開催した。「自転車で渡れる橋“しまなみ海道”、風光明媚な島々に惹かれ来訪する旅行者をまちなか散策に誘いたい」、そんな思いで散策する中、たくさんの資源が抽出された。一つ一つの資源について、その背景等を探り、物語性を持たせて発信、保存していく大切さを共有した。

【第1回 自転車業界のオピニオンリーダー疋田氏と散策するワークショップ】

日時：平成23年6月12日（日）9：30-12：30

会場：今治公民館 他

参加者：約20名

【第2回 まちなかお宝発見サイクリング】

日時：平成23年7月17日（日）10：00-15：30

会場：今治市民活動センター 他

参加者：約27名



★成果

○浜風街道マップ

○「散走」の提案により、車では発見できないまちなかのポテンシャルを発信

【コラボカフェの展開】

自転車旅行者・愛好者をターゲットに、今治のまちなかへの誘客をめざして、自転車移動カフェ「シクロカフェ」を随所で展開。地産の食材を活かした飲食物の提供とともに、先の事業の成果物「今治まちなかマップ」の配布と市内の見所の紹介を行い、交流と情報提供という目的を遂行した。

また、しまなみ海道の入り口側での情報発信も必須であることから、広島市内でも「シクロカフェ」を運用し、マップ・情報誌を通じて情報を伝える活動を行った。



★成果

○移動式サイクルカフェのしくみを展望・協力店とのコミュニケーション

○自転車旅行者誘客効果の実感・来訪者交流

(2) 自転車専用レーン整備推進事業

限られた道路空間を有効活用するための環境整備、意識啓発など目指し、講演会やワークショップを開催した。ワークショップでは、自転車旅行の起点となるレンタサイクルステーション「サンライズ糸山」から、今治市の都市機能が集積する中心市街地の約7kmについて、自転車の良好な走行環境形成を目指し、観光客、市民双方が走りやすい「自転車走行空間」について検討し、自転車による安全な回遊性の創出を目指した。

自転車の歩道走行、対面通行等、自転車活用の認識が間違っている日本では、自転車施策は進み辛い現状がある。一方、「しまなみ海道」を有するまち・今治市は、スポーツバイクの往来比率は高く、「左側車道」を走る自転車を目にする市民が多いことが推測される。ワークショップの結果、日本全体が抱える交差点の問題点等が確認されたが、ドライバーの優しさ等、車道をシェアする気持ちが生まれているとの感覚も共有できた。自転車施策を後押しする市民理解により、自転車都市誕生への好循環を期待したいと感じた。

【講演会の開催】

日時：平成23年6月10日（金）19：00-21：00

会場：今治市民会館

参加者：約150名



「自転車ツーキニスト」として知られる疋田智氏を招き、自転車の魅力、観光・都市交通に自転車を取り入れるために求められるハード・ソフト両面の課題などを参加者と共有した。欧米で続々と誕生する「自転車都市」。車中心の社会の中で、政府の強い意志と徐々に高まる市民意識の両輪で政策を進めていく秘訣を学んだ。自転車政策を進めた結果、多くの都市で実現している「渋滞緩和」「交通死亡事故減少」「医療費削減」「環境都市誕生」は、日本の持つ課題とダイレクトにつながっており、興味深いものだった。

ドイツ・ミュンスターにおいて実現している「自転車による中心市街地再生」は、郊外大型店との差別化として、徒歩・自転車での購買層を獲得した事例として当該事業に通じるものが多く、自転車をまちに取り入れる可能性を感じた。

【道路点検ワークショップの開催】

日時：6月11日（土）9：00-15：30

会場：今治公民館 他

今治市中心市街地から「しまなみ海道」入口のエリアの自転車走行空間の現状について、公募で集まった市民の参加型による、点検ワークショップを行った。点検した3ルート（片道約7km）は、「バスの往来がある道」、「狭い蛇行道」等、タイプがそれぞれ異なっていたが、自転車走行空間創出に向けては、車中心の整備を前提とした道路の現状から浮かび上がる共通の課題が見えてきた。



★成果

- 自転車まちづくりの先進事例のとりまとめ
- 自転車のメリット（個人・社会）の参加者への認識の浸透
- 誘客ルートの目処
- 自転車安全啓発の参加者への意識浸透
- 今治の道路環境の現状と展望の可視化

(3) 高校生によるカコイイ自転車スタイル開発プロジェクト

自転車を活用した中心市街地の再生を進める中、自転車のムーブメントへの期待が大きくなる一方で、自転車に関わる諸問題がクローズアップされてきた。自転車の走行環境や規則の曖昧さ、マナーに欠ける運転の横行等、自転車を取り巻く環境は課題が多く、地道な啓発活動が求められる。

そこで、自転車利用率の高い高校生に協力を求め、自転車を取り巻く環境を改善するためのプロジェクトを進めた。限られた時間で有意義な成果を導くため、愛媛県立今治南高等学校をモデル校に設定し、約10時間をかけてワークショップや話し合いを展開。交通規則やマナーの理解を促す「啓発ツール：セーフティグッズ」を制作した。

【講演会「衝撃の真実 自転車に乗る高校生へのメッセージ」】

プロジェクト初回は、モデル校である愛媛県立今治南高等学校を舞台に、1年生270人を対象にした講演会を開催。「しまなみ海道」を有する今治市において、安全に自転車に乗る人が増えるようお手伝いを呼びかけた。

日 時：平成23年12月9日（金）14：50-15：40

会 場：愛媛県立今治南高等学校

参加者数：約270名



【Mission 1 自転車の安全な走り方を大検証】

約35名が自発的に集合。まずは、いつもの通学路を自転車で走りながら、そこに潜む危険を検証するワークショップを開催した。

日 時：平成23年12月21日（水）14：00-17：00

会 場：愛媛県立今治南高等学校

参加者数：約35名



【Mission 2 自転車のセーフティグッズを大開発】

実際に自転車で走って感じた「安全な走り方」。「こうなったらいいな」そんな気づきを言葉にし、メッセージをつくる作業を繰り返した。

日 時：平成24年1月20日（金）16：00-17：45

会 場：愛媛県立今治南高等学校

参加者数：約35名



【Mission 3 今治らしい乗り方を大公開】

プロジェクトチームの中から出てきたメッセージを、デザイナーとのコラボレーションでセーフティ反射ステッカーとして仕上げた。

配布のしくみを検討し、そのしくみを活用した「自転車安全運転誓約書」への署名をプロジェクトメンバーが行った。

日 時：平成24年1月30日（月）17：00-18：30

会 場：愛媛県立今治南高等学校

参加者数：約35名



【啓発イベント】

「セーフティグッズ（自転車反射ステッカー）を配布する啓発イベントを実施。「規則を守る＝カッコイイ乗り方」を一般市民に浸透させるものとなった。

日 時：平成24年2月12日（日）10：00-15：30

会 場：今治商店街ヴィサージュ前

参加者数：今治南高等学校プロジェクトメンバー約35名



★成果

- 参加高校生の安全運転への意識の芽生え
- 安全運転を呼びかけるしくみの構築
- セーフティステッカー配布900枚。安全運転への意識の芽生え
- 愛媛県警との連携の芽生え

(4) 連携イベント（にぎわい部会・デザイン部会連携）

中心市街地エリアにおいて、交流・情報発信・啓発の各種取組を、部会連携はもとより、市内の様々な団体との協働で実施した。自転車によって、まちなかを安心安全なにぎわい空間として活用できる可能性を見出すことができる貴重な機会が積み重なり、次への展望を描くことができた。

[まちなかウェルカムセレモニー（にぎわい部会連携事業）]

“自転車で旅する文化”と“四国の魅力”を世界に向かって発信することを目指す「コグウェイ四国」。世界10カ国、60名のサイクリストが四国1周をする途中の今治市に立ち寄る際、まちなかの魅力的な空間の一つである「南光坊」でおもてなしと情報発信を行った。

日 時：平成23年9月11日（日）15：30-17：00

会 場：南光坊

参加者：約60名



南光坊に到着した一行を、白装束のお遍路姿や着物姿で出迎え。会場は写真撮影会さながら。日本・四国の文化を体感していただいた。



ウェルカムドリンク提供の様子。ご住職をはじめ、地元住民との対話が和やかに進んだ。島イチゴのスムージー、ホットコーヒーなどを提供するシクロカフェにも興味を持っていただいた。



「しまなみ海道」からまちなかへ先導したガイドメンバーは地元の冊子に掲載される等、波及効果も。

[自転車俳句ライブ～あなたの俳句でまちが変わる～（連携事業「シンボル広小路」）]

環境にも健康にもいいと自転車への支持が高まる一方で、自転車事故の増加、サイクリストのモラル低下が懸念される。自転車のまちづくりを進める上で、自転車の魅力はもちろん、自転車の安全な乗り方、規則について、俳句を通して学ぶ俳句ライブを開催した。

日 時：平成23年10月30日（日）12：00-15：30

会 場：ヴィサージュ1F

参加者：45名



俳人 夏井いつきさんによる「俳句レクチャー」。自転車の安全ポイント解説に、本日の俳句の種が。



自転車啓発パネルを閲覧しながら、自転車の魅力と安全走行について考える一行。



自転車や徒歩でまちなかを吟行。季節は秋。自転車をイメージしながら句をひねる。



25の入選句を紹介。会場の声を拾いながら和やかにライブが進行。タオル手ぬぐいが記念賞。



10の優秀句を紹介。この中から一番応援したい句を参加者が選ぶ。Tシャツを記念にプレゼント。



今日が一番人気の句を詠んだのはなんと小学生。キムさんのステキな俳画がプレゼント。やったネ！

[車輪で遊ぶ 輪まつり (連携事業「シンボル広小路」)]

「小さい頃に自転車の楽しさを知ってもらうことで、自転車まちづくりに貢献できる」、そんな長期ビジョンを描き、自転車で遊ぶ空間を商店街内に創出。同時に、「車椅子バスケット」のコーナーや、「タンDEM遅いもん競争」などのコーナーを設け、多様な市民のふれあい・交流を促した。

(今治東ライオンズクラブとの連携開催)

日 時：平成23年10月30日 (日) 10:00-15:30

会 場：今治商店街アーケード内



タンDEM遅いもん競争

親子での参加者が多く、家族と一緒に楽しめる時間を提供できた。



車いすバスケスラローム。

車椅子バスケットを指導している若者たちが参画し、手ほどきを受けて楽しんでもらった。



一輪車スラローム

ライオンズクラブのメンバーが乗り方指導を行い、安心して楽しめる空間と時間を提供した。

★成果

○定期的な開催を望む声が寄せられる等、市民の高評価

○シクロカフェの併設による誘客